

# 本書の構成

---

## 本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

---

## 第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

---

## 第2章 ハードウェア

本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

---

## 第3章 増設

本ワークステーションに取り付け可能な周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

---

## 第4章 BIOS

BIOS セットアップについて説明しています。また、本ワークステーションのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

---

## 第5章 SCSI BIOS 設定

内蔵ハードウェアを取り付けたあとに行う、SCSI BIOS 設定について説明しています。

---

## 第6章 技術情報

本ワークステーションの仕様などを記載しています。

# 目次

<b>本書をお読みになる前に</b>	5
本書の表記	5
<b>第1章 各部名称</b>	
1 各部の名称と働き	10
ワークステーション本体前面	10
ワークステーション本体背面	12
ワークステーション本体内部	14
マザーボード	16
<b>第2章 ハードウェア</b>	
1 マウスについて	20
マウスの使い方	20
2 キーボードについて	22
3 CDについて	24
取り扱い上の注意	24
CDをセットする／取り出す	25
4 フロッピーディスクについて	26
取り扱い上の注意	26
フロッピーディスクをセットする／取り出す	26
5 ハードディスクについて	28
注意事項	28
6 ハードウェアのお手入れ	29
ワークステーション本体のお手入れ	29
マウスのお手入れ	29
キーボードのお手入れ	30
フロッピーディスクドライブのお手入れ	31
7 筐体のセキュリティ	32
施錠の方法	32
<b>第3章 増設</b>	
1 周辺機器を取り付ける前に	34
取り扱い上の注意	34
2 本体カバーを取り外す	36
本体カバーの取り外し方	36
3 メモリを取り付ける	40
メモリについて	41
メモリボードを取り外す	42

メモリボードを取り付ける .....	42
メモリ／C-RIMMを取り外す .....	43
メモリ／C-RIMMを取り付ける .....	44
<b>4 CPU モジュールを取り付ける .....</b>	<b>45</b>
プロセッサを取り付ける .....	46
マルチプロセッサカーネルへの変更 .....	49
<b>5 拡張カードを取り付ける .....</b>	<b>51</b>
拡張カードを取り付ける .....	52
<b>6 各種ドライブを取り付ける .....</b>	<b>55</b>
ディスクベイを取り付ける／取り外す .....	57
ファイルベイへドライブを取り付ける .....	61
ハードディスクドライブを内蔵ハードディスクベイへ取り付ける .....	63
ハードディスクドライブをフロントディスクベイへ取り付ける .....	65
ハードディスクドライブをサイドディスクベイへ取り付ける .....	66

## 第4章 BIOS

<b>1 BIOS セットアップとは .....</b>	<b>68</b>
<b>2 操作方法 .....</b>	<b>69</b>
CMOS Setup ユーティリティを起動する .....	69
各キーの役割 .....	70
CMOS Setup ユーティリティを終了する .....	70
<b>3 メニュー詳細 .....</b>	<b>72</b>
Standard CMOS Features メニュー .....	73
Advanced Boot Options メニュー .....	76
Advanced Chipset Features メニュー .....	79
Integrated Peripherals メニュー .....	81
Power Management Setup メニュー .....	84
PnP/PCI Configurations メニュー .....	86
Security Features メニュー .....	89
CPU Smart Setting メニュー .....	91
PC Health Status メニュー .....	93
Load Optimized Defaults .....	94
Save & Exit Setup .....	94
Exit Without Saving .....	94

## 第5章 SCSI BIOS 設定

<b>1 SCSI BIOS 設定とは .....</b>	<b>96</b>
<b>2 操作方法 .....</b>	<b>97</b>
Fast!UTIL ユーティリティの操作方法 .....	97
<b>3 Fast!UTIL ユーティリティのメニューと項目の詳細 .....</b>	<b>99</b>
Configuration Settings メニュー .....	100
Scan SCSI Bus メニュー .....	105
SCSI Disk Utility メニュー .....	105

Select Host Adapter メニュー .....	106
Exit Fast!UTIL メニュー .....	106

## 第 6 章 技術情報

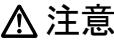
<b>1 仕様一覧 .....</b>	108
本体仕様 .....	108
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 .....	109
LAN 機能 .....	109
表示機能 .....	110
<b>2 コネクタ仕様 .....</b>	111
<b>索引 .....</b>	115

# 本書をお読みになる前に

## 本書の表記

### ■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 <b>警告</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

### ■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 <b>重要</b>	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

### ■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

## ■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:  
↑ ↑

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【space】キーを1回押してください。  
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

[CD-ROM ドライブ]:\\$setup.exe

## ■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

## ■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作  
↓  
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

## ■ BIOS の表記

本文中の BIOS 設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン) でつなげて記述する場合があります。

例：「Advanced Boot Options」の「Boot Other Device」の項目を「Enabled」に設定します。  
↓  
「Advanced Boot Options」-「Boot Other Device」:Enabled

## ■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2002 年 6 月現在のものです。変更されている場合は、弊社担当営業員または担当保守員へお問い合わせください。

## ■ カスタムメイドオプション

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

## ■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いのOS以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記	
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP	Windows ™ ※
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000	
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	Windows NT	
Norton AntiVirus™ 2002	AntiVirus	
VERITAS RecordNow DX 4.0	RecordNow	
Adobe® Acrobat® Reader 5.0	Acrobat Reader	

※：Windows XP/2000/NT のように併記する場合があります。

## ■ 機種名表記

本文中では、次のように表記します。

なお、本書ではお使いの機種以外の情報もありますが、ご了承ください。

機種名	本文中の表記	
CELSIUS670	CELSIUS670	本ワークステーション／ ワークステーション本体
CELSIUS330	CELSIUS330	その他のワークステーション
CELSIUS340	CELSIUS340	

※：CELSIUS330/340/670 のように併記する場合があります。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2002  
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

# 第1章

## 各部名称

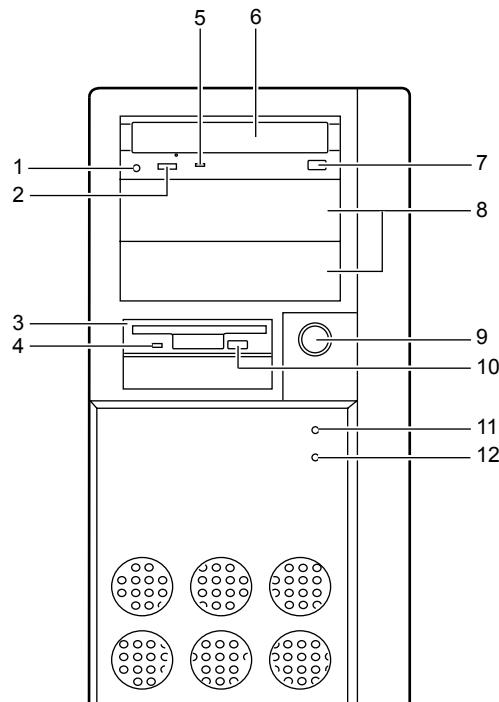
各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き ..... 10

# 1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、マザーボードの各部の名称と働きを説明します。

## ワークステーション本体前面



### 1 ヘッドホン端子（音楽 CD のみ）

市販のヘッドホンで音楽 CD を聴くときに、ヘッドホンを接続します。

### 2 ヘッドホンボリューム（音楽 CD のみ）

ヘッドホンを接続したときに、ヘッドホンの音量を調整します。

### 3 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み込んだりします。

### 4 フロッピーディスクアクセスランプ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み込んだりしているときに点灯します。

### 5 CD アクセスランプ

CD-ROM からデータを読み込んでいるときや、音楽 CD を再生しているときに点灯します。

**6 CD-ROM ドライブ**

CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、音楽用 CD を再生したりします。

**7 CD 取り出しボタン**

CD-ROM をセットするときや、取り出すときに押します。

**8 ファイルベイ**

各種ドライブを取り付けます。

**9 電源ボタン**

ワークステーション本体の電源を入れるときや、スタンバイにするときに押します。

**10 フロッピーディスク取り出しボタン**

フロッピーディスクを取り出すときに押します。フロッピーディスクアクセスランプが点灯しているときは押さないでください。

**11 電源ランプ**

ワークステーション本体に電源が入っていないときは消灯しています。

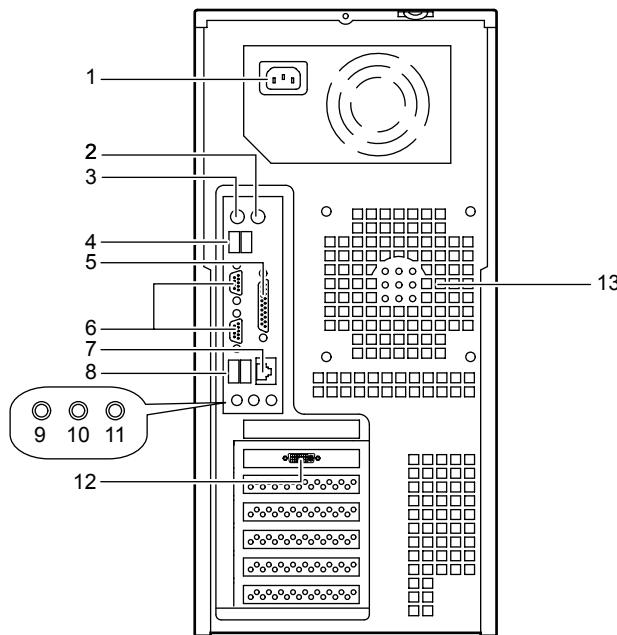
ワークステーション本体に電源が入っているときは緑色に点灯します。

スタンバイモードのときは緑色に点滅します。

**12 ディスクアクセスランプ**

ハードディスクにデータを書き込むときや、ハードディスクからデータを読み込むときに点灯します。

## ワークステーション本体背面



### 1 インレット

ワークステーション本体の電源ケーブルを接続します。

### 2 マウスコネクタ (□)

マウスのケーブルを接続します。

### 3 キーボードコネクタ (□)

キーボードのケーブルを接続します。

### 4 USB コネクタ 1、2 (□)

USB 規格の周辺装置を接続します。

Windows NT ではサポートしておりません。

### 5 パラレルコネクタ (□)

プリンタのケーブルを接続します。

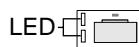
### 6 シリアルコネクタ 1、2 (□)

モデムなど RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

### 7 LAN コネクタ (LAN)

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。

100Mbps で使用する場合には、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。



LED の意味は、以下のとおりです。

上部 LED 点灯 (緑色) : 100Mbps で LINK を確立中

上部 LED 消灯 : 10Mbps で LINK を確立中

下部 LED 点灯 (黄色) : LINK を確立

下部 LED 点滅 (黄色) : データを転送中、または Magic Packet(TM) を受信中

下部 LED 消灯 : LINK は非確立

**8 USB コネクタ 3、4 (↔)**

USB 規格の周辺装置を接続します。  
Windows NT ではサポートしておりません。

**9 マイク端子 (○)**

マイクを接続します。

**10 ラインアウト端子 (↔)**

アンプ付きスピーカーを接続します。

**11 ラインイン端子 (↔)**

オーディオ機器の入力端子を接続します。

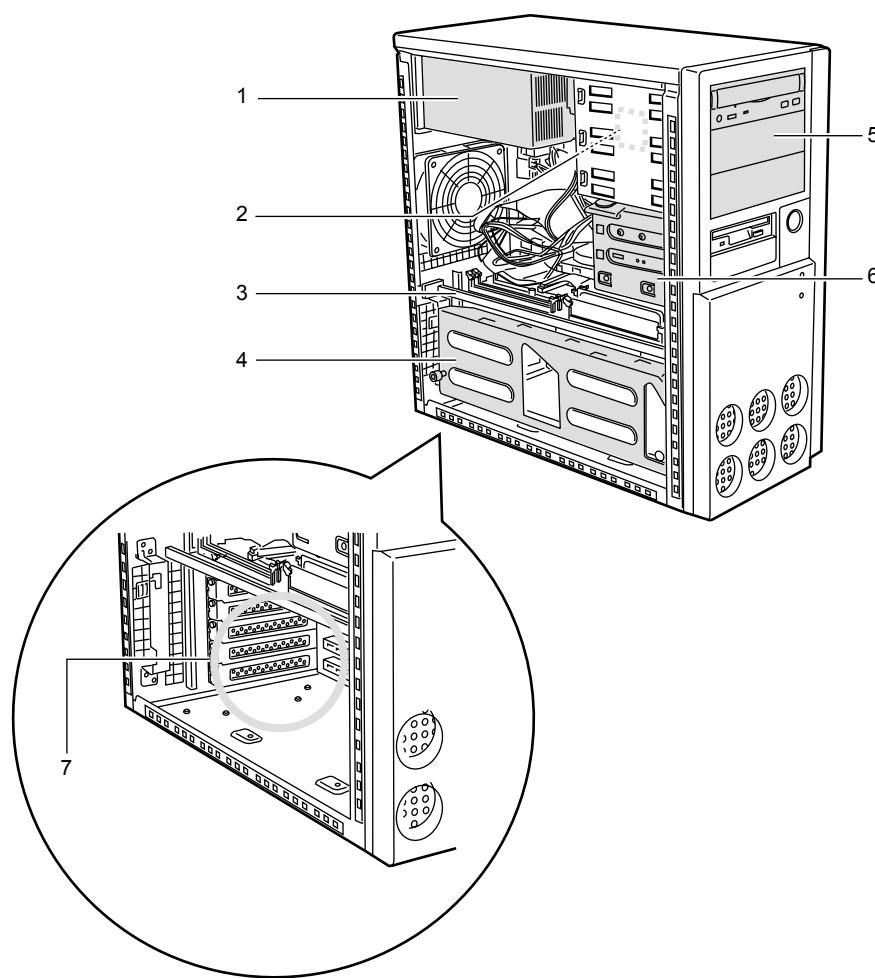
**12 DVI-I コネクタ**

DVI-VGA 変換ケーブルまたはデジタルディスプレイのディスプレイケーブルを接続します。なお、カスタムメイドオプションによってはコネクタの種類が異なります。

**13 通風孔 (冷却ファン)**

ワークステーション本体内部の熱を外部に逃すための開孔部です。

## ワークステーション本体内部



**1 電源ユニット****2 CPU モジュール**

ファイルベイ奥のマザーボード上にあります。

1CPU システムを 2CPU システムにアップグレードすることができます。

**3 メモリボード／メモリ**

メモリを 4 組 (8 枚) まで搭載することができます。

**4 サイドディスクベイ**

内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。

右からサイドディスクベイ 1、2 と並んでいます。

**5 ファイルベイ**

各種ドライブを取り付けます。

下からファイルベイ 1～3 と並んでいます。

**6 フロントディスクベイ**

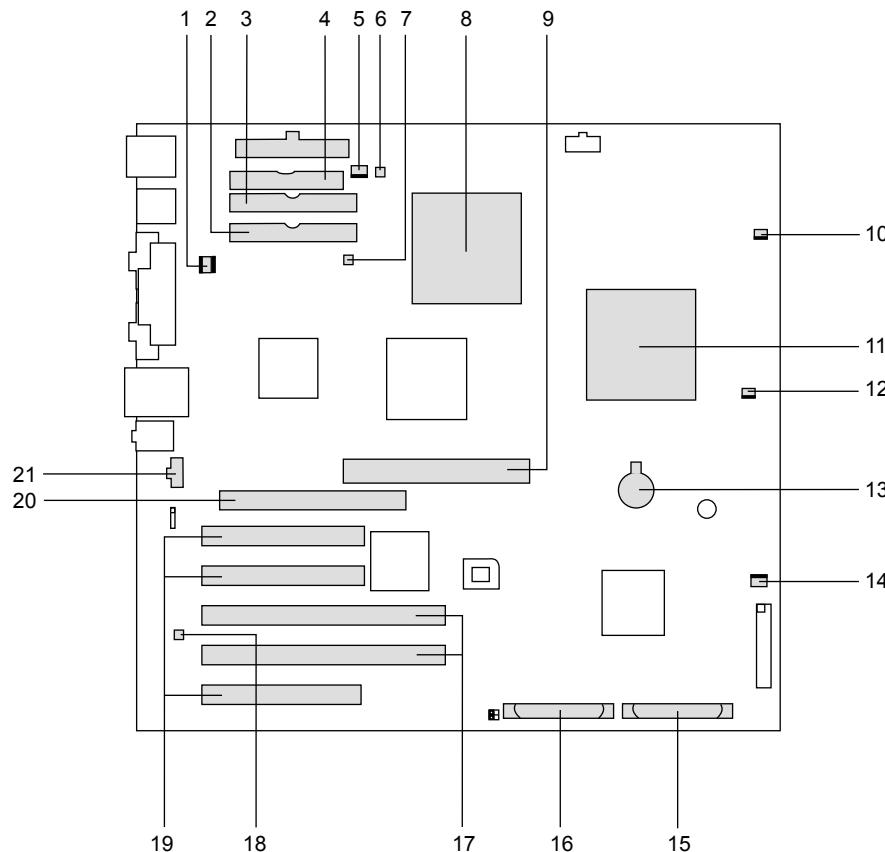
内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。

下から内蔵ハードディスクベイ 1、2 と並んでいます。

**7 拡張スロット／グラフィックスカード**

拡張カードを取り付けます。

## マザーボード



**1** ファンコネクタ (プロセッサ 1 用)

**2** プライマリ IDE コネクタ

プライマリ IDE 用のケーブルを接続します。

**3** セカンダリ IDE コネクタ

セカンダリ IDE 用のケーブルを接続します。

**4** フロッピーコネクタ

フロッピーディスクドライブのケーブルを接続します。

**5** ファンコネクタ 1 (背面 120mm FAN 用)

**6** 温度センサ 2

BIOS 設定の「PC Health Status」メニューの「Current Remote Temp 2」に対応します。

**7** 温度センサ 1

BIOS 設定の「PC Health Status」メニューの「Current Remote Temp 1」に対応します。

- 8** プロセッサ 1 用ソケット
- 9** メモリ拡張ボードコネクタ
- 10** ファンコネクタ (プロセッサ 0 用)
- 11** プロセッサ 0 用ソケット
- 12** ファンコネクタ 2 (前面 80mm FAN 用)
- 13** 内蔵バッテリ

本ワークステーションのセットアップ設定値を保存するためのバッテリです。

- 14** ファンコネクタ 3 (前面 120mm FAN 用)

- 15** Ultra 160 Wide SCSI コネクタ B

- 16** Ultra 160 Wide SCSI コネクタ A

- 17** 64-bit PCI スロット

64/32-bit PCI カードを取り付けます。

- 18** 温度センサ 3

BIOS 設定の「PC Health Status」メニューの「Current Remote Temp 3」に対応します。

- 19** 32-bit PCI スロット

32-bit PCI カードを取り付けます。

- 20** AGP Pro スロット

グラフィックスカードを取り付けます。

- 21** CD-IN コネクタ

CD-ROM ドライブのオーディオケーブルを接続します。

### POINT

- ▶ 本体背面にスロット番号が刻印されていますが、本ハードウェアガイドに記載している AGP/PCI スロット番号とは異なりますので、ご注意ください。

## Memo

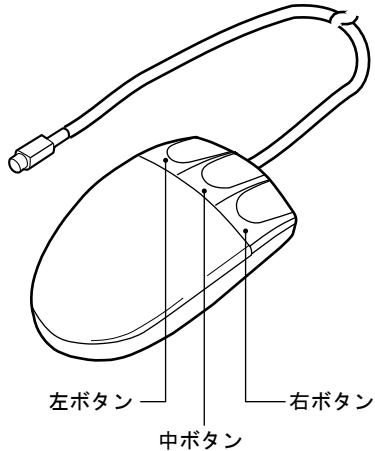
## 第2章

# ハードウェア

本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1 マウスについて	20
2 キーボードについて	22
3 CDについて	24
4 フロッピーディスクについて	26
5 ハードディスクについて	28
6 ハードウェアのお手入れ	29
7 筐体のセキュリティ	32

# 1 マウスについて



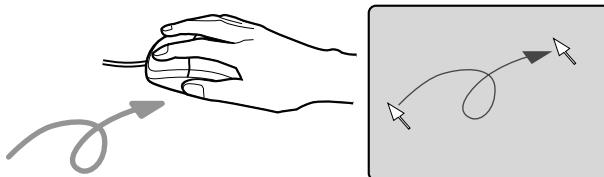
## POINT

- マウスは、定期的にクリーニングを行ってください (→ P.29)。

## マウスの使い方

### ■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。

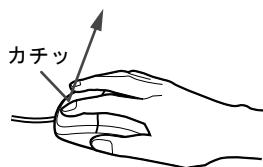


### ■ ボタンの操作

#### ● クリック

マウスの左ボタンを1回カチッと押します。

また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。



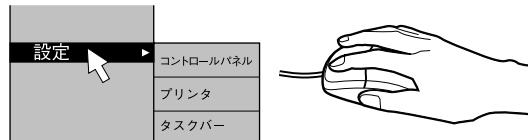
### ● ダブルクリック

マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。



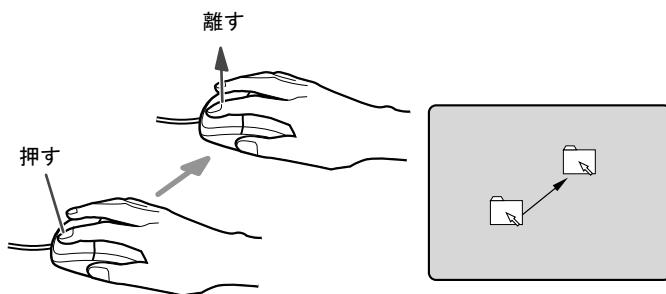
### ● ポイント

マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合(メニューの右端に▶が表示されています)、そのメニューが表示されます。



### ● ドラッグ

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



### POINT

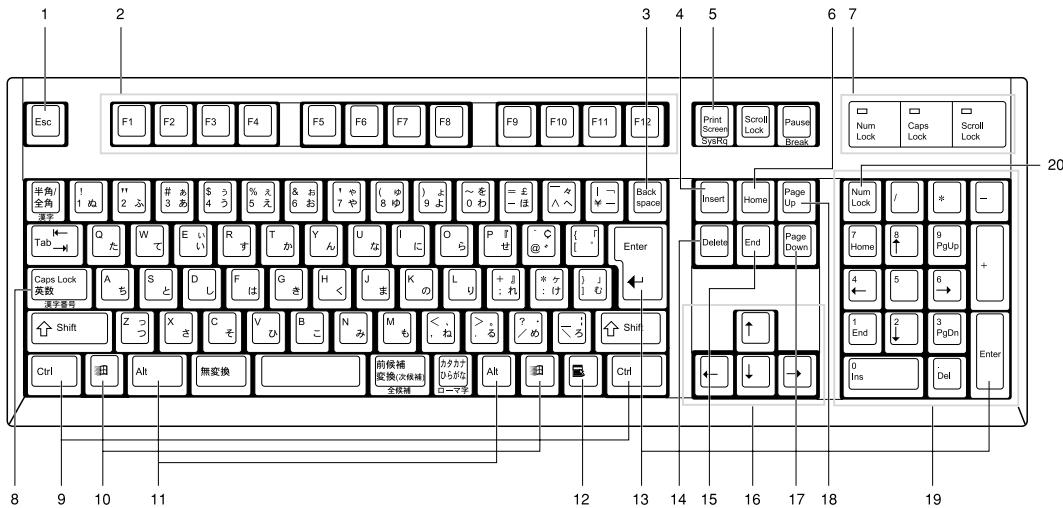
- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで右利き用（主な機能に左側のボタンを使用）に設定した場合の操作です。
- ▶ 中ボタンは対応するアプリケーションで使用します。

## 2 キーボードについて

キーボード（109日本語キーボード）のキーの役割を説明します。

### POINT

- お使いになるOSやアプリケーションにより、キーの役割が変わることがあります。OSやアプリケーションのマニュアルをご覧ください。



### 1 Escキー

アプリケーションの実行中の動作を取り消します。

### 2 Fキー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

### 3 Back spaceキー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

### 4 Insertキー

文字の挿入／上書きの切り替えをするときに押します。

### 5 Print Screenキー

画面表示をクリップボードに取り込みます。

### 6 Homeキー

カーソルを行の最初に一度に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最初に一度に移動します。

### 7 インジケータ

【Num Lock】キー、【Shift】+【Caps Lock 英数】キー、【Scroll Lock】キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

### 8 Caps Lock 英数キー

アルファベットを入力するときに使います。

【Shift】+【Caps Lock 英数】キーで大文字／小文字を切り替えます。

### 9 Ctrlキー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

**10 Windows キー**

「スタート」メニューを表示するときに押します。

**11 Alt キー**

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

**12 Application キー**

マウスの右クリックと同じ役割をします。

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。

**13 Enter キー**

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

文を改行したり、コマンドを実行したりします。

**14 Delete キー**

文字を削除するときに押します。また、【Ctrl】キーと【Alt】キーと一緒に押すと、本ワークステーションをリセットできます。

**15 End キー**

カーソルを行の最後に一度に移動するときに押します。

【Ctrl】キーと一緒に押すと、文章の最後に一度に移動します。

**16 カーソルキー**

カーソルを移動します。

**17 Page Down キー**

次の画面に切り替えるときに押します。

**18 Page Up キー**

前の画面に切り替えるときに押します。

**19 テンキー**

「Num Lock」インジケータ点灯時に数字が入力できます。

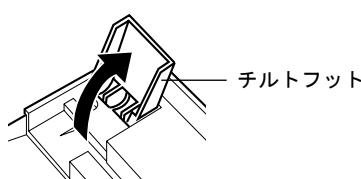
「Num Lock」インジケータ消灯時にキーワーク時に刻印された機能が有効になります。

**20 Num Lock キー**

テンキーの機能を切り替えるときに押します。

 **POINT**

- キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



## 3 CDについて

CDの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

### 取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、CDをお使いになるときは、次の点に注意してください。

#### ■ CD媒体の注意事項

- CDは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

#### ■ ドライブの注意事項

- 「CD媒体の注意事項」が守られていないCD、ゆがんだCD、割れたCD、ヒビの入ったCDはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。上記のCDをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 本ワークステーションは、円形のCDのみお使いになります。円形以外の異形CDは、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形CDをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 市販のCD-ROMクリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROMクリーニングディスクをお使いにならないでください。
- 一部のコピー防止機能が付いた音楽CDについては、ご利用いただけない場合があります。

#### POINT

- ▶ CD-ROMは、音楽用CD（コンパクトディスク）に、音の代わりにさまざまな情報（文字など）を保存したものです。ROMとは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本ワークステーションでは、CD-ROMの情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません（カスタムメイドでCD-R/RWを選択した場合を除く）。
  - ▶ 本ワークステーションでは、次図のマークがついたCDのみお使いになります。マークのないCDはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。
- また、マークの種類によっては、アプリケーションが必要になる場合があります。

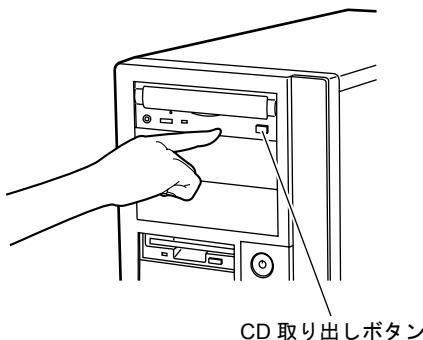


※1: CD-R/RWドライブをお使いの場合に、書き込みができます。

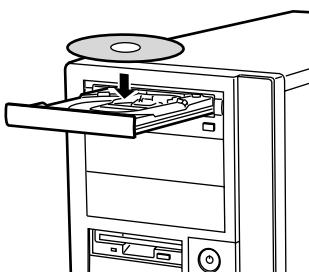
## CDをセットする／取り出す

### ■ CDをセットする

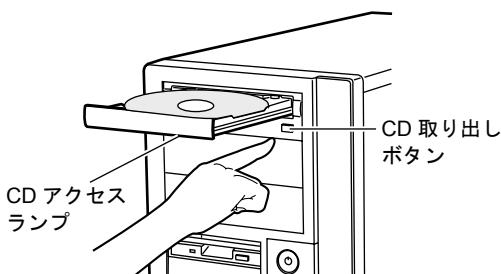
- 1 CD取り出しボタンを押します。  
CDをセットするトレーが出てきます。



- 2 CDのラベル面を上にして、トレーの中央に置きます。



- 3 CD取り出しボタンを押します。  
トレーがワークステーション本体に入り、CDがセットされます。



#### POINT

- ▶ CDをセットすると、CDアクセスランプが点灯します。CDアクセスランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。

### ■ CDを取り出す

CDの取り出しは、CDアクセスランプが消えるのを確認してから、CD取り出しボタンを押して行ってください。

## 4 フロッピーディスクについて

フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

### 取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、フロッピーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

### フロッピーディスクをセットする／取り出す

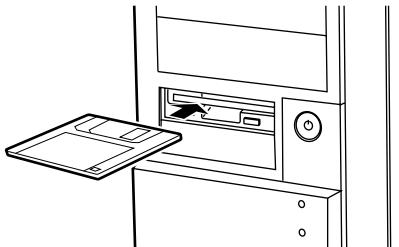
#### POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他（1.2MB フォーマットなど）のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

#### ■ フロッピーディスクをセットする

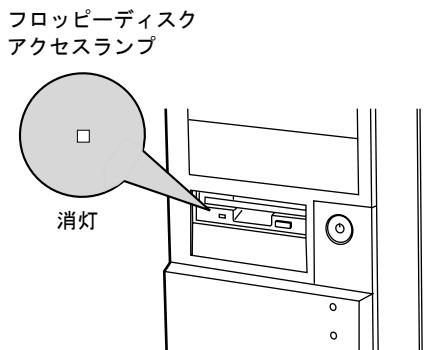
- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスク ドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスクがセットされます。



## ■ フロッピーディスクを取り出す

- 1 フロッピーディスクアクセスランプが消えていることを確認します。

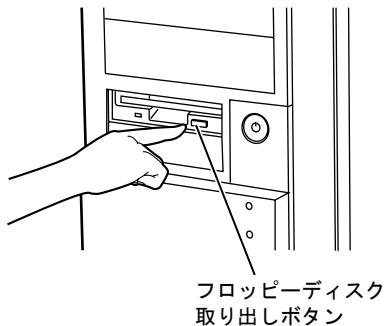


### POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセスランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊されるおそれがあります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。



## 5 ハードディスクについて

ハードディスクの取り扱いについて、気をつけていただきたいことを説明します。

### 注意事項

故障の原因となりますので、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態で本ワークステーションを持ち運んだり、衝撃や振動を与えると危険です。
- 極端に温度変化が激しい場所でのご使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所でのご使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所でのご使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでのご使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

#### POINT

- ▶ 取り扱い方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

# 6 ハードウェアのお手入れ

## ワークステーション本体のお手入れ

### △ 警告



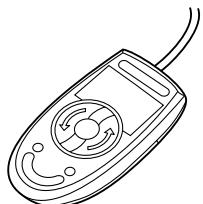
- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。  
感電の原因となります。
- 柔らかい布でから拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぶった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぶった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などを使いにならないでください。ワークステーション本体を損傷する原因となります。
- 通風孔にほこりがたまらないように、掃除機でほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。

## マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

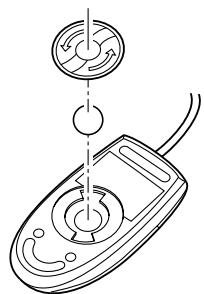
### 1 マウスの裏ブタを取り外します。

マウス底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。



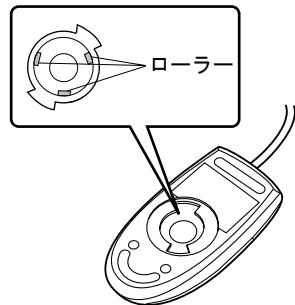
**2 ボールを取り出して、水洗いします。**

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



**3 マウス内部をクリーニングします。**

マウス内部、および裏ブタは、水に浸して固くしぶった布で拭きます。  
ローラーは、綿棒で拭きます。



**4 ボールと裏ブタを取り付けます。**

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

## キーボードのお手入れ

---

柔らかい布でから拭きます。

## フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サプライ品）のクリーニングフロッピーで、3ヶ月に1回程度クリーニングしてください。

● サプライ品

クリーニングフロッピイマイクロ

商品番号：0212116

（富士通コワーコ取り扱い品：☎ 03-3342-5375）

**1** クリーニングフロッピーをセットします。

**2** コマンドプロンプトから、dirなどのディスクにアクセスするコマンドを実行します。

例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。

dir a:

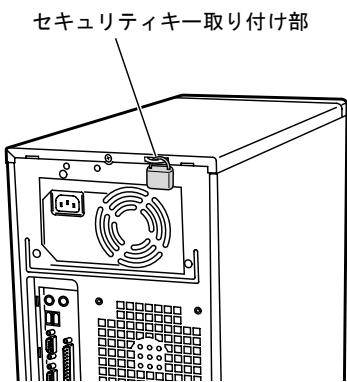
**3** フロッピーディスクアクセランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

## 7 筐体のセキュリティ

本ワークステーション内部の装置（ハードディスクやCPUなど）を盗難から守るために、本ワークステーションのカバーに施錠することができます。

### 施錠の方法

セキュリティキー取り付け部にお手持ちの鍵を取り付けます。



## 第3章

### 増設

本ワークステーションに取り付け可能な周辺機器について、基本的な取り扱い方などを説明しています。

1	周辺機器を取り付ける前に	34
2	本体カバーを取り外す	36
3	メモリを取り付ける	40
4	CPU モジュールを取り付ける	45
5	拡張カードを取り付ける	51
6	各種ドライブを取り付ける	55

# 1 周辺機器を取り付ける前に

本ワークステーションは、さまざまな周辺機器を接続または内蔵して、機能を拡張できます。

## ⚠ 警告



- 周辺機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。  
感電・火災または故障の原因となります。

## ⚠ 警告



- 周辺機器類の取り付け、取り外しを行う際は、マニュアルに指定された場所以外のネジは、外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあり、また、故障の原因となることがあります。
- ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。  
誤った接続状態でお使いになると、本ワークステーションおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。



## 取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器の中には、お使いになれないものがあります  
ご購入の前に『CELSIUS シリーズシステム構成図』をご覧になり、その周辺機器が使えるかどうかを確認してください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします  
純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかつたり、ワークステーションが故障しても、保証の対象外となります。  
純正品が用意されていない機器については、本ワークステーションに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけに  
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないことがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了してから、別の周辺機器を取り付けてください。
- ワークステーションおよび接続されている機器の電源を切る  
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ワークステーションの電源を切った状態でも、ワークステーション本体内部には電流が流れています。
- 電源を切った直後は作業をしない  
電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後10分ほど待ってから作業を始めてください。

**● 電源ユニットは分解しない**

電源ユニットは、ワークステーション本体内部の背面側にある箱形の部品です（「各部名称」－「ワークステーション本体内部」（→ P.14））。

**● 柔らかい布の上などで作業してください**

固いものの上に直接置いて作業すると、ワークステーション本体に傷が付くおそれがあります。

**● 内部のケーブル類や装置の扱いに注意**

傷つけたり、加工したりしないでください。

**● 静電気に注意**

内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。

**● 基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れない**

金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。

**● 周辺機器の電源について**

周辺機器の電源はワークステーション本体の電源を入れる前に入れるもののが一般的ですが、ワークステーション本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

**● ACPI に対応した周辺機器をお使いください**

本ワークステーションは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）に対応しています。ACPI 対応の OS で周辺機器をお使いになる場合、周辺機器が ACPI に対応しているか周辺機器の製造元にお問い合わせください。ACPI に対応していない周辺機器を使うと、正常に動作しないおそれがあります。

**● ドライバーを用意する**

周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要です。

ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

## 2 本体力バーを取り外す

内蔵オプションを取り付けるときは、トップカバーとサイドカバーを取り外して、内部が見える状態にします。必要に応じて、フロントカバーも取り外す必要があります。

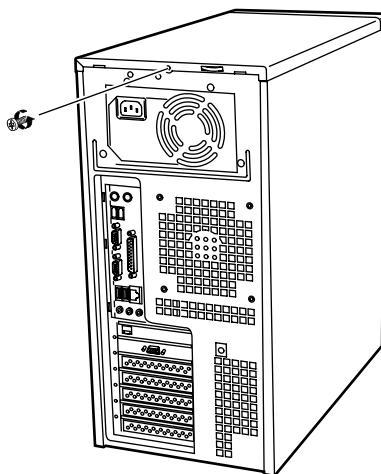
### POINT

- ▶ 本ワークステーションは、セキュリティ機能の1つとしてカバーの開閉を監視しています。
- ▶ カバーの開閉後の電源投入時に「Warning!! Your Computer Chassis has been opened.」と表示されます。
- ▶ 警告メッセージを解除するには、BIOS 設定の「Security Features」-「Clear Chassis Intrusion」を「Yes」に変更してワークステーションを再起動してください。

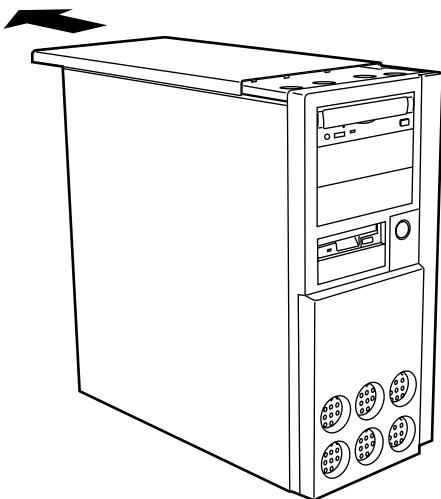
### 本体力バーの取り外し方

#### ■ トップカバーの取り外し

- 1 ワークステーションの電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
- 2 ワークステーションに接続されているすべてのケーブルをコネクタから取り外します。
- 3 ワークステーション本体を作業しやすい場所に移動します。
- 4 ワークステーション本体背面上のネジ（1ヶ所）を取り外します。



- 5** トップカバーを後方にスライドさせ、ワークステーション本体から取り外します。

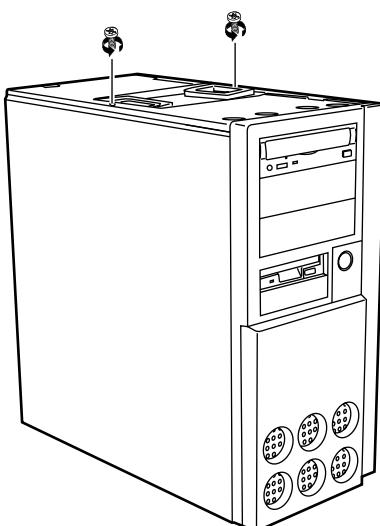


**POINT**

- ▶ 取り付けは、取り外し手順を参照して行ってください。

■ サイドカバーの取り外し

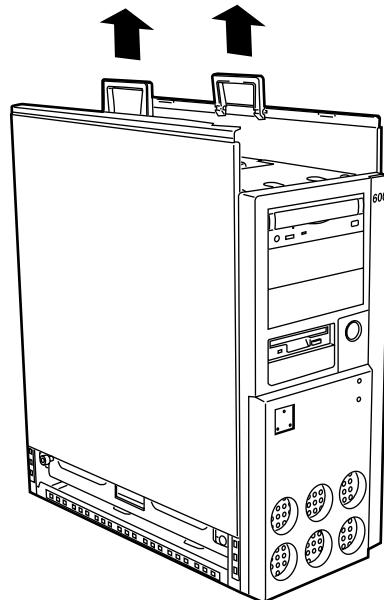
- 1 トップカバーを取り外します。
- 2 サイドカバーのネジ（2ヶ所）を取り外します。



**POINT**

- ▶ 取り外したネジはワークステーション本体の上に置かないでください。  
本体の隙間から、ネジが本体内部に落下するおそれがあります。

- 3 サイドカバーのハンドルを持って、ワークステーション本体から引き上げます。

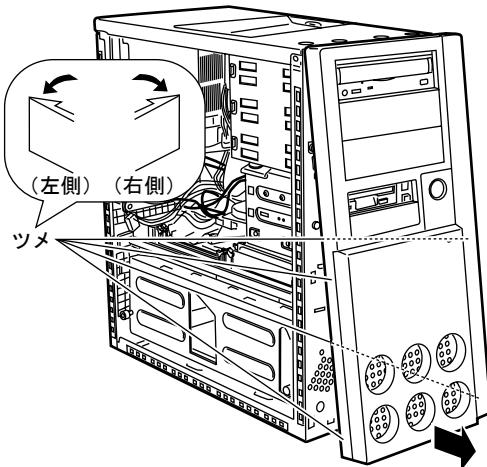


 **POINT**

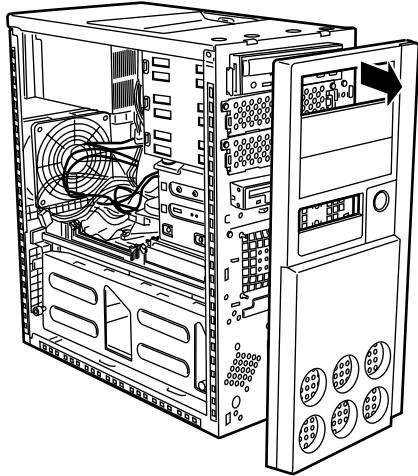
- 取り付けは、取り外し手順を参照して行ってください。

## ■ フロントカバーの取り外し

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 フロントカバー裏側のツメ（左右各2ヶ所）を矢印方向に押して、ワークステーション本体から取り外します。



- 3** フロントカバー裏側のツメ（上部 2ヶ所）をはずし、ワークステーション本体からフロントカバーを取り外します。



 **POINT**

- ▶ 取り付けは、取り外し手順を参照して行ってください。

## 3 メモリを取り付ける

本ワークステーションのメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力があがります。

### POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切った後に取り付けを行ってください (→『取扱説明書』)。
- ▶ 搭載可能なメモリは、『CELSIUS シリーズシステム構成図』で確認してください。
- ▶ メモリボードを取り付ける場合は、本ワークステーションが倒れないようにワークステーション本体を支えながら作業してください。ワークステーション本体を横向きにすると作業しやすくなります。

### ⚠ 警告



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。



- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となります。



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を行ってください。火傷の原因となります。

### ⚠ 注意



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジを外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

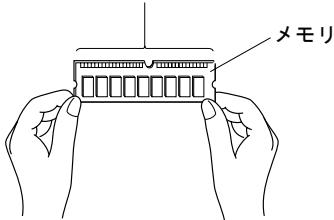


- メモリは何度も抜き差ししないでください。  
故障の原因となることがあります。



- メモリは次図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



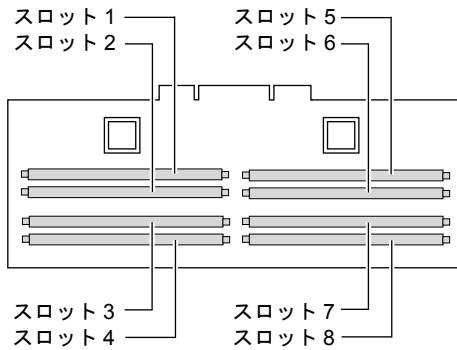
## メモリについて

本ワークステーションは、標準で 256MB のメモリを搭載しており、最大で 4GB のメモリを搭載できます。

メモリは、メモリボードのスロットに取り付けます。スロットには、128MB/256MB/512MB の RDRAM メモリモジュールを同一容量 2 枚 1 組で取り付けてください。

### ● メモリの取り付け組み合せ

メモリを取り付けるときは、同一容量 2 枚一組とし、スロット 1 とスロット 7、スロット 3 とスロット 5、スロット 2 とスロット 8、スロット 4 とスロット 6 の組み合せで取り付けます。次の表と図でメモリの組み合せとスロット位置を確認し、正しく取り付けてください。

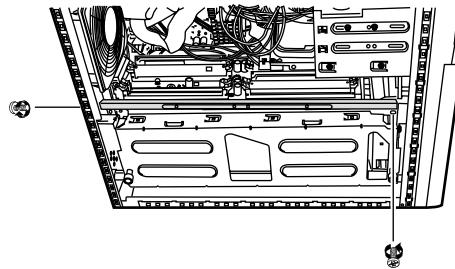


	スロット							
	1	2	3	4	5	6	7	8
基本の組み合せ	メモリ (基本)	C-RIMM	C-RIMM	C-RIMM	C-RIMM	C-RIMM	メモリ (基本)	C-RIMM
基本 + 1 組増設時	メモリ (基本)	C-RIMM	メモリ (増設 1 組め)	C-RIMM	メモリ (増設 1 組め)	C-RIMM	メモリ (基本)	C-RIMM
基本 + 2 組増設時	メモリ (基本)	メモリ (増設 2 組め)	メモリ (増設 1 組め)	C-RIMM	メモリ (増設 1 組め)	C-RIMM	メモリ (基本)	メモリ (増設 2 組め)
基本 + 3 組増設時	メモリ (基本)	メモリ (増設 2 組め)	メモリ (増設 1 組め)	メモリ (増設 3 組め)	メモリ (増設 1 組め)	メモリ (増設 3 組め)	メモリ (基本)	メモリ (増設 2 組め)

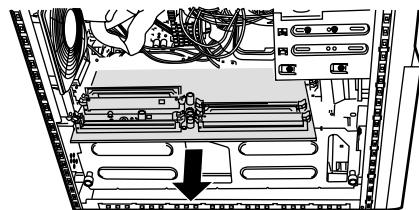
※：メモリを取り付けないスロットには、必ず C-RIMM (中継モジュール) を取り付けてください。何も取り付けられていないと本ワークステーションが正常に動作しません。

## メモリボードを取り外す

- 1 大きめのマウスパッドなど、メモリボードの大きさに合った柔らかいパッドを用意します。
- 2 トップカバーと左サイドカバーを取り外します（→ P.36）。
- 3 メモリボード固定金具を取り外します。



- 4 メモリボードを矢印の方向に引いて、ワークステーション本体から取り外します。



- 5 メモリボードを手順1で用意したパッドの上に置きます。

### POINT

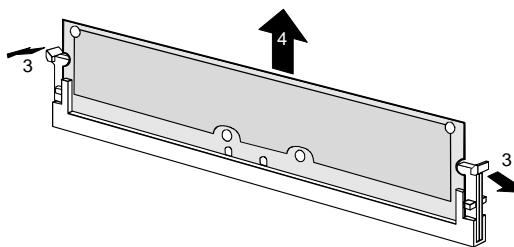
- メモリの取り付け／取り外しを行うとき、メモリボードは必ず柔らかいパッドの上に置いて作業を行ってください。固い台の上で作業をすると、メモリボード上の部品が損傷したりメモリボードが曲がったりする場合があります。

## メモリボードを取り付ける

メモリボードの取り付けは、取り外しと逆の手順で行い、必ず固定金具でメモリボードを固定してください。

## メモリ／C-RIMMを取り外す

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 メモリボードを取り外します。
- 3 メモリまたはC-RIMMを取り外すスロットの、左右のレバーを外側に開きます。



### POINT

- ▶ レバーを勢いよく開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

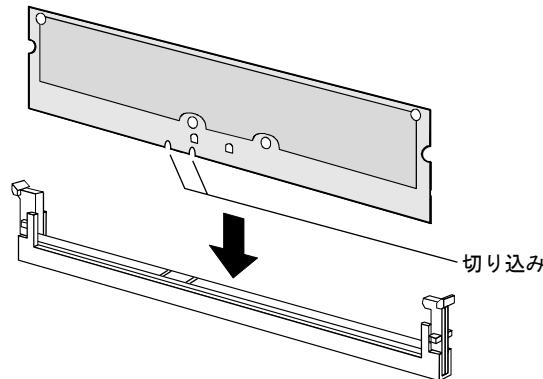
- 4 メモリまたはC-RIMMをスロットから取り外します。

### POINT

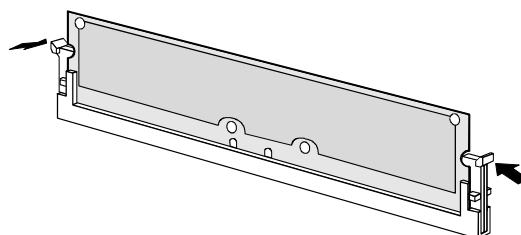
- ▶ 取り外したメモリまたはC-RIMMは大切に保管しておいてください。

## メモリ／C-RIMMを取り付ける

- メモリまたはC-RIMMをスロットに垂直に差し込みます。  
コンタクト部分の切り込みで向きを判断して、正しく差し込んでください。



- 左右のレバーでモジュールを固定します。



- メモリボードを取り付けます。
- サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

# 4 CPU モジュールを取り付ける

CPU モジュールの取り付け方法を説明します。

1CPU システムの場合は、CPU モジュールを追加することにより 2CPU システムにアップグレードすることができます。

## POINT

- ▶ マザーボードに CPU モジュールを追加するには、同じ種類（動作クロック周波数および FSB クロック周波数）のプロセッサしか使用できません。
- ▶ CPU モジュールは弊社純正品を使用してください。純正品以外の CPU モジュールを取り付けると、起動しません。
- ▶ 搭載可能な CPU モジュールは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。
- ▶ CPU モジュール取り付け後はオペレーティングシステムをマルチプロセッサカーネルへ変更する必要があります。  
変更方法は、オペレーティングシステムにより異なります。本節をよくお読みになり、正しくお使いください。
- ▶ CPU モジュールを取り付ける場合は、本ワークステーションが倒れないようにワークステーション本体を支えながら作業してください。ワークステーション本体を横置きにすると作業しやすくなります。

## ⚠ 警告



- CPU モジュールの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。  
感電の原因となります。



- CPU モジュールを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。  
感電・火災または故障の原因となります。



- CPU モジュールの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を行ってください。  
火傷の原因となります。

## ⚠ 注意



- CPU モジュールの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジを外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- CPU モジュールは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。CPU モジュールを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。



- CPU モジュールは何度も抜き差ししないでください。  
故障の原因となることがあります。



- CPU モジュールはふちを持ってください。ピンの部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

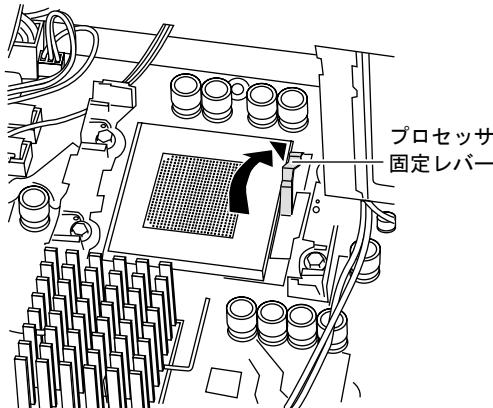
## プロセッサを取り付ける

- 1 トップカバーと左サイドカバーを取り外します（→ P.36）。
- 2 フロントディスクベイを取り外します（「ディスクベイを取り付ける／取り外す」（→ P.57））。
- 3 メモリボードを取り外します（「メモリボードを取り外す」（→ P.42））。

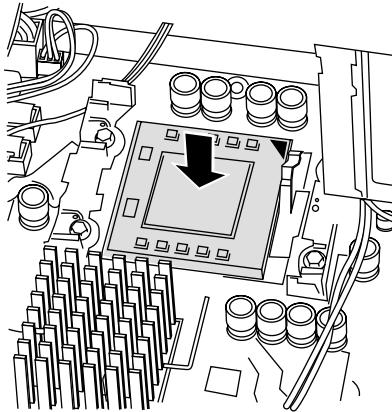
### POINT

- ▶ メモリボードは必ず取り外して作業を行ってください。
- ▶ 取り外したメモリボードは、平らな場所に置いてください。

- 4 プロセッサ固定レバーを、止まるところまで引き上げます。



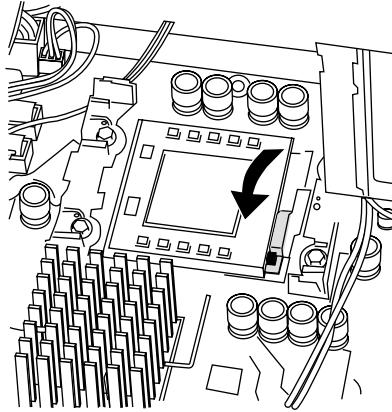
- 5** プロセッサを、ピンの位置を確認しながらソケットに垂直に差し込みます。



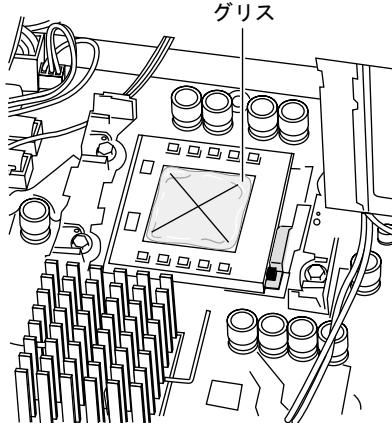
 **POINT**

- ▶ ソケットの▼マークとプロセッサの▼マークを合わせて、差し込んでください。

- 6** プロセッサ固定レバーを、カチッと止まるまで押し下げます。



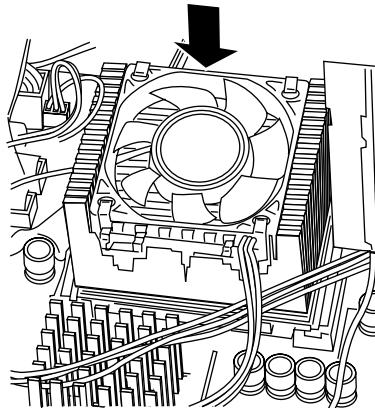
- 7** 注射器でグリスを×印にぬります。



POINT

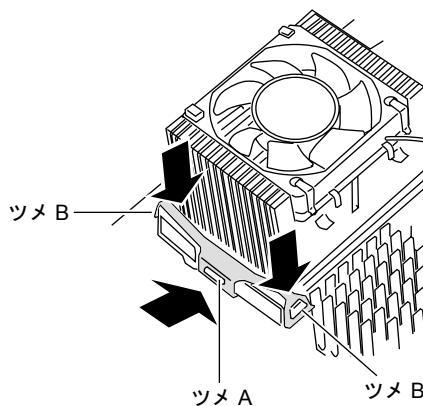
- ▶ 注射器には2回分の容量が入っています。約半分の量を使用してください。
- ▶ CPUは非常に熱くなる部品です。ヒートシンクとCPUの間に、必ず弊社製品添付のグリスを使用してください。
- ▶ データ破壊・発火・発煙の原因となることがあります。

**8** ヒートシンクを取り付けます。



**9** ヒートシンクの両脇を、それぞれ金具で固定します。

ツメ A に金具を合わせて掛け、金具の両側をカチッと音がするまで強く押してツメ B (2ヶ所) に金具に掛けます。



**10** マザーボード上のファンコネクタ (プロセッサ 1 用) にファン用ケーブルを接続します (第1章の「マザーボード」 (→ P.16))。

**11** メモリボードを取り付けます (「メモリボードを取り付ける」 (→ P.42))。

**12** フロントディスクベイを取り付けます (「ディスクベイを取り付ける／取り外す」 (→ P.57))。

**13** 左サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

## マルチプロセッサカーネルへの変更

CPU モジュールを追加して 1CPU システムから 2CPU システムにアップグレードした場合、オペレーティングシステムをマルチプロセッサカーネルに変更する必要があります。以下の方法で、マルチプロセッサカーネルに変更することができます。

### POINT

- ▶ マルチプロセッサカーネルに変更する前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

### ■ Windows XP の場合

- 1 Windows をシャットダウンし、ワークステーション本体の電源を切ってから、拡張 CPU モジュールを増設します。
- 2 ワークステーション本体の電源を入れ、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 3 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 4 「作業する分野を選びます」で、パフォーマンスとメンテナンスをクリックします。
- 5 「コントロールパネルを選んで実行します」で、システムをクリックします。
- 6 「システムのプロパティ」で「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 7 「デバイスマネージャ」で、「コンピュータ」をダブルクリックします。
- 8 「ACPI ユニプロセッサ PC」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 9 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
- 10 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」で、「一覧または特定の場所からインストールする（詳細）」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 11 「検索とインストールのオプションを選んでください。」で、「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 12 「ACPI マルチプロセッサ PC」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 13 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」で、「完了」をクリックします。
- 14 すべてのウィンドウを閉じます。
- 15 再起動メッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
- 16 デスクトップ画面の「システム設定の変更」で、「はい」をクリックします。

以上で、マルチプロセッサカーネルへの変更は完了です。

## ■ Windows 2000 の場合

Windows 2000 の場合、再インストールする必要があるため、システムのリカバリを行う必要があります。リカバリ方法については、「リカバリ操作（Windows XP/2000）」（→『取扱説明書』）をご覧ください

### 重要

- ▶ リカバリ後は、「Windows 2000 Security Rollup Package 1」が適用されていない状態になります。設定終了後、Windows Update を行い、最新のモジュールを適用することをお勧めします。  
Windows Update を行うには、インターネットに繋がる環境で「スタート」メニュー→「Windows Update」の順にクリックし、Windows Update のページで「製品の更新」をクリックしてください。

## ■ Windows NT の場合

Windows NT の場合、再インストールする必要があるため、システムのリカバリを行う必要があります。リカバリ方法については、「再インストール（Windows NT）」（→『取扱説明書』）をご覧ください。

# 5 拡張カードを取り付ける

拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。

## POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切った後に取り付けを行ってください (→ 『取扱説明書』)。
- ▶ 搭載可能な拡張カードは、『CELSIUS シリーズシステム構成図』で確認してください。

## ⚠ 警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。



- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。  
感電・火災または故障の原因となることがあります。



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を行ってください。  
火傷の原因となります。

## ⚠ 注意



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。  
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



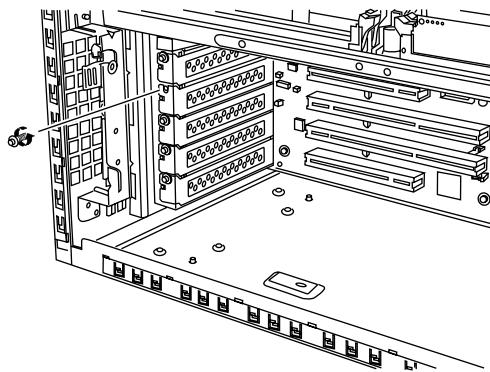
- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。  
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- マザーボードのワークステーション本体背面側の金具には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



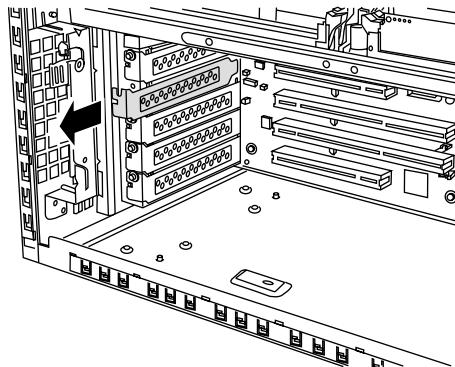
- 拡張カードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。拡張カードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

## 拡張カードを取り付ける

- 1 トップカバーと左サイドカバーを取り外します（→P.36）。
- 2 サイドディスクベイを取り外します（「ディスクベイを取り付ける／取り外す」（→P.57））。
- 3 スロットカバー固定ネジを取り外します。



- 4 スロットからスロットカバーを取り外します。

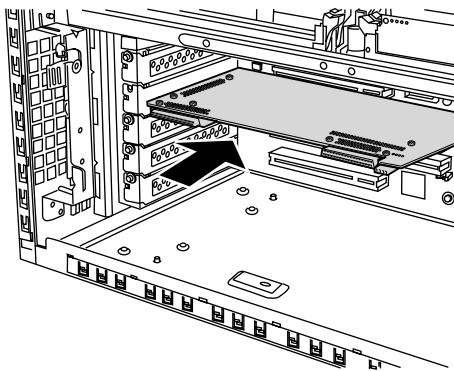
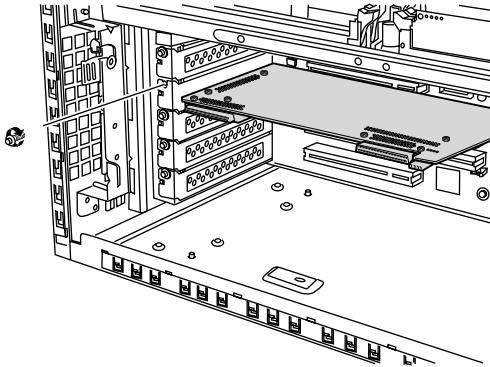


### POINT

- ▶ 取り外したスロットカバーとスロットカバー固定ネジは大切に保管してください。

**5 拡張カードをスロットに差し込みます。**

拡張カードのカバーの先端がガイドにはまり込むようにします。

**6 拡張カード固定ネジを取り付けます。****7 必要に応じて、ケーブルを拡張カードに接続します。****8 左サイドディスクベイを取り付けます（「ディスクベイを取り付ける／取り外す」（→ P.57））。****9 左サイドカバーとトップカバーを取り付けます。****10 本ワークステーションの電源を入れます。**

必要に応じて、拡張カードのデバイスドライバをインストールします。デバイスドライバをインストールして設定すると、拡張カードを使用できるようになります。

 **POINT**

- ▶ 拡張カードの取り外しは、取り付ける手順を参照して行ってください。

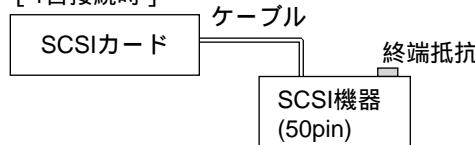
## ☞ 重要

- ▶ SCSI カードをお使いの場合、次のことに注意してください。
  - ・外付 SCSI 装置は 2 台までしか接続できません。外付 SCSI 装置を 3 台以上接続する場合は複数の SCSI カードに分けて接続してください。
  - なお、外付 SCSI 装置を接続する場合に使用するケーブルは接続装置によって異なります。以下に示すものを使用してください。
    - 68pin(Wide)SCSI 装置を接続する場合  
68pin(Wide)SCSI 装置を接続される場合、SCSI 装置に添付されております SCSI ケーブル及び終端抵抗を使用して接続してください。  
この場合、50pin (Narrow) SCSI 装置は接続できません。



- 50pin(Narrow)SCSI 装置を接続する場合  
50pin(Narrow)SCSI はコネクタの形状として、フルピッチとハーフピッチの 2 種類があります。接続される場合、以下に示すものを選択してください。

### [ 1台接続時 ]



ケーブル	SCSI 装置	終端抵抗
GP5-832	フル	FMV-692
GP5-833	ハーフ	FMV-695

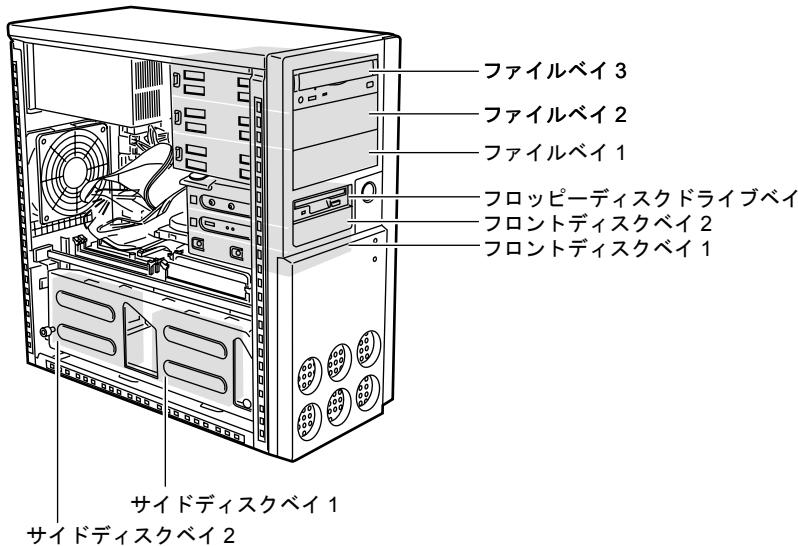
### [ 2台接続時 ]



ケーブル 1	SCSI 機器 1	ケーブル 2	SCSI 機器 2	終端抵抗
GP5-832	フル	FMB-CBL831	フル	FMV-692
		FMS-834	ハーフ	FMV-695
GP5-833	ハーフ	FMS-834	フル	FMV-692
		FMV-CBL32	ハーフ	FMV-695

## 6 各種ドライブを取り付ける

本ワークステーションには、ファイルベイを3個、内蔵ハードディスクベイを4個、フロッピーディスクドライブベイを1個、搭載しており、各種ドライブを取り付けることができます。



### POINT

- ▶ 本ワークステーションをご購入後、各種ドライブを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- ▶ 搭載可能な各種ドライブおよびドライブベイは、「CELSIUS シリーズシステム構成図」で確認してください。
- ▶ 内蔵MOディスクユニット、内蔵光磁気ディスクユニットは、ファイルベイ1に搭載してください。

### ⚠ 警告



- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。感電の原因となります。



- 各種ドライブ取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となります。



- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を行ってください。火傷の原因となります。

## △ 注意



- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジを外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 各種ドライブは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまたま静電気により破壊される場合があります。各種ドライブを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

## ■ IDE 規格の内蔵オプション（ハードディスクドライブを除く）について

IDE 規格の内蔵オプションはセカンダリ IDE 側に接続されているケーブルに接続します。ドライブの設定は次のようにしてください。

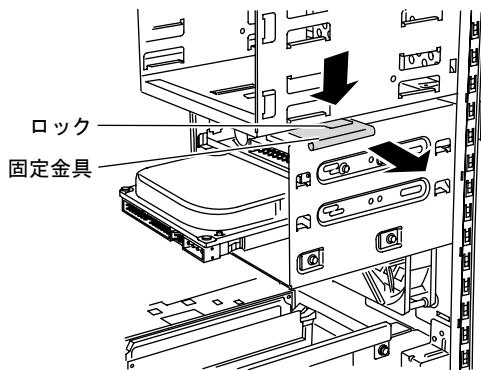
	マスタ	スレーブ
CD-ROM/CD-R/RW を 1 台搭載の場合	CD-ROM/CD-R/RW	—
CD-ROM/CD-R/RW を 2 台搭載の場合	CD-ROM/CD-R/RW	CD-ROM/CD-R/RW

## ディスクベイを取り付ける／取り外す

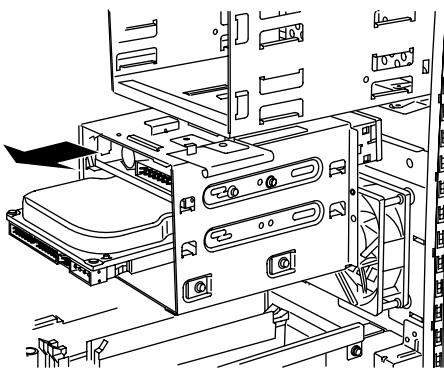
フロッピーディスクドライブの交換や内蔵ハードディスクドライブの取り付けの場合に、必要に応じてディスクベイを取り外して作業を行います。

### ■ フロントディスクベイを取り外す

- 1 トップカバーと左サイドカバーを取り外します（→P.36）。
- 2 信号ケーブルおよび電源コネクタを、ドライブからすべて取り外します。
- 3 ロックを押しながら、固定金具を矢印方向に引き出します。

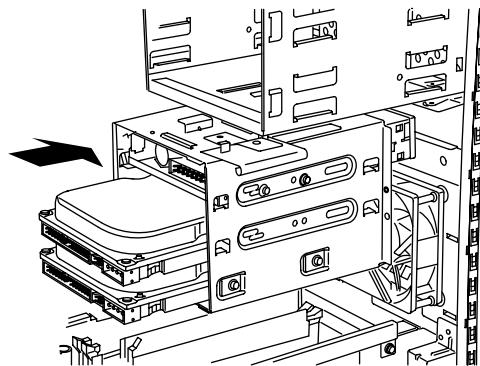


- 4 フロントディスクベイを矢印方向に引いて、ワークステーション本体から取り外します。



## ■ フロントディスクベイを取り付ける

- 1 フロントディスクベイのガイドレールをワークステーション本体の溝に合わせます。
- 2 フロントディスクベイをカチッとはまるまで、矢印方向に押します。



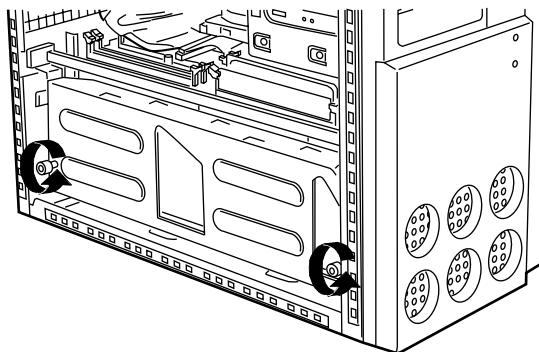
- 3 ロックを、カチッとはまるまで押し込みます。
- 4 信号ケーブルおよび電源コネクタを、ドライブに接続します。

### POINT

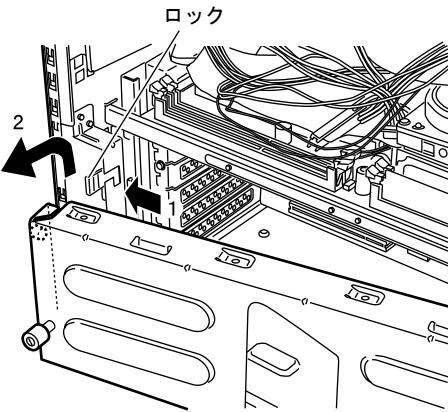
- ▶ 必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。

## ■ サイドディスクベイを取り外す

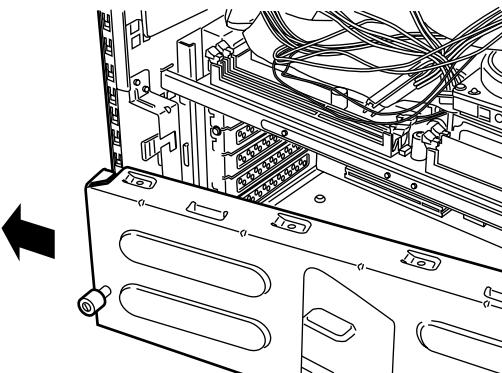
- 1 サイドディスクベイの2ヶ所のネジをゆるめます。



- 2** ロックを矢印方向1に押しながら、サイドディスクベイを矢印方向2に引き出します。

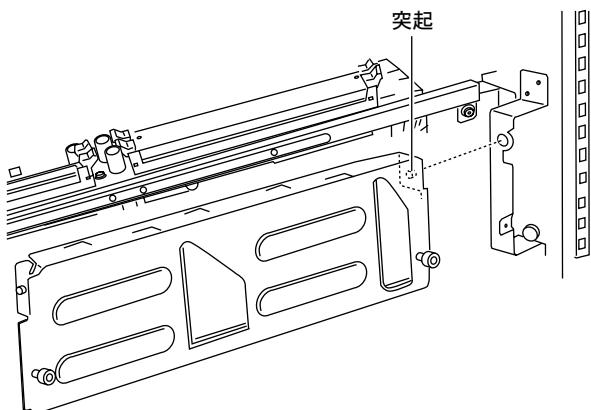


- 3** サイドディスクベイを矢印方向に引いて、ワークステーション本体から取り外します。

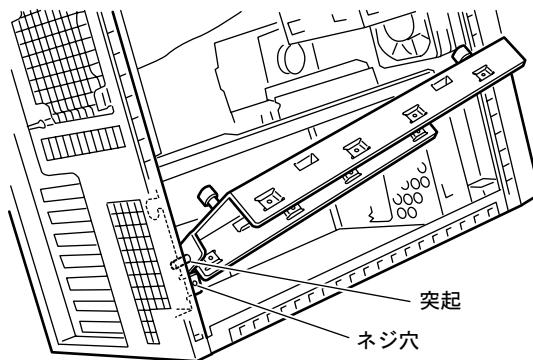


### ■ サイドディスクベイを取り付ける

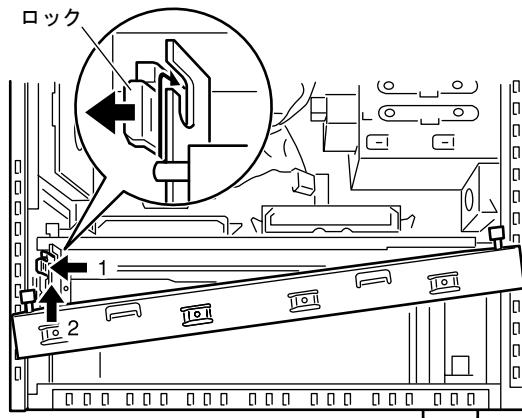
- 1** サイドディスクベイの突起をワークステーション本体の穴にはめ込みます。



**2** ネジ穴とサイドディスクベイの突起を合わせます。

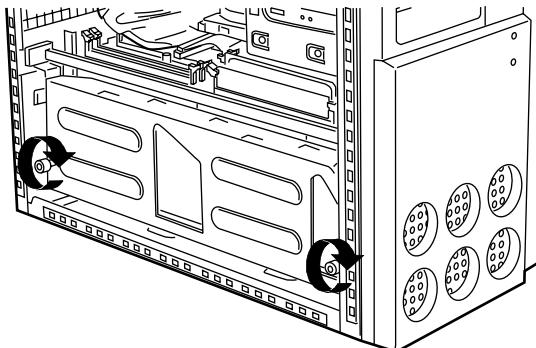


**3** ロックを矢印方向1に押しながら、サイドディスクベイを矢印方向2にスライドさせ、溝に合わせてはめ込みます。



**4** ロックを戻します。

**5** サイドディスクベイの2ヶ所のネジをしめます。

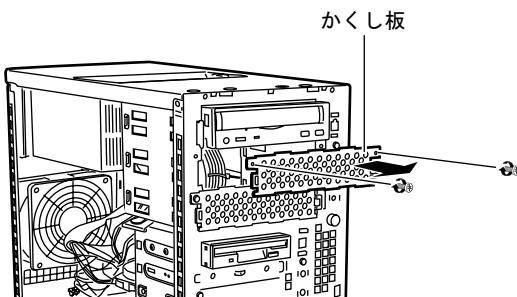


## ファイルベイへドライブを取り付ける

### POINT

- ▶ 内蔵DATユニット、光磁気ディスクユニットなどNarrow SCSI機器を取り付ける場合は、内蔵SCSIケーブル（オプション、MO/DAT用）を使用してください。

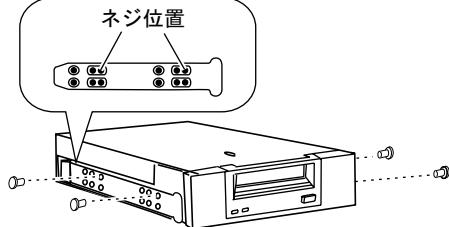
- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します（→P.36）。
- 2 フロントカバーを取り外します。
- 3 ファイルベイの内側のかくし板を取り外します。



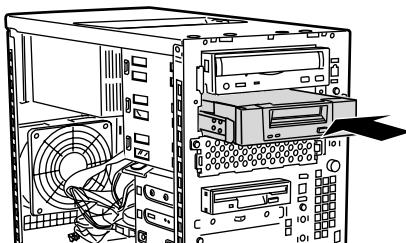
### POINT

- ▶ 取り外したかくし板は大切に保管してください。

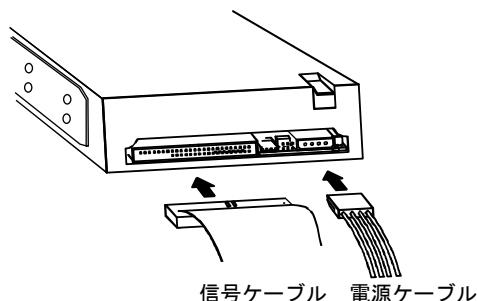
- 4 ドライブの設定を行います。  
設定方法は、各ドライブに添付されているマニュアルを参照してください。
- 5 ドライブにガイドレールを取り付けます。



- 6 ドライブを搭載するベイに取り付け、カチッとはまるまで押し込みます。



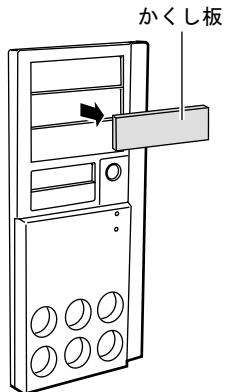
7 信号ケーブルおよび電源ケーブルのコネクタをドライブに接続します。



POINT

- ▶ 電源ケーブルは正しく接続してください。  
間違った接続を行うと、故障の原因となります。

8 フロントカバーのかくし板を取り外します。



9 フロントカバーを取り付けます。

10 サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

POINT

- ▶ 必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。
- ▶ ドライブの取り外しは、取り付ける手順を参照して行ってください。

## ハードディスクドライブを内蔵ハードディスクベイへ取り付ける

### ■ ハードディスクドライブの搭載組合せについて

基本モデルでは、IDE ハードディスクドライブがフロントベイ 1 に搭載されています。ハードディスクドライブを増設する場合は、以下の組み合せで搭載してください。  
ベイの位置については、「ワークステーション本体内部」(→ P.14) をご覧ください。

	基本モデル	内蔵ハードディスク交換／追加機構選択時および単純増設実施時			
	IDE-HDD1 台	IDE-HDD2 台	IDE-HDD1 台 SCSI-HDD2 台	IDE-HDD1 台 SCSI-HDD3 台	SCSI-HDD4 台
フロントディスクベイ -2	IDE-HDD1 (基本)	IDE-HDD1 (基本)	IDE-HDD1 (基本)	IDE-HDD1 (基本)	SCSI-HDD4
フロントディスクベイ -1	—	IDE-HDD2	—	SCSI-HDD3	SCSI-HDD1 (基本)
サイドディスクベイ -1	—	—	SCSI-HDD1	SCSI-HDD1	SCSI-HDD2
サイドディスクベイ -2	—	—	SCSI-HDD2	SCSI-HDD2	SCSI-HDD3

### ■ IDE ハードディスクについて

- OS を起動させるハードディスクは、必ずプライマリ IDE コネクタにマスターとして接続してください。スレーブとして接続したり、セカンダリ IDE コネクタに接続したりすると、OS が起動できない場合があります。
- ワークステーション本体に接続されている IDE ケーブルはプライマリ IDE に接続するケーブルとセカンダリ IDE に接続するケーブルとで異なります。
- IDE ハードディスクを接続する場合は、Ultra DMA/100 に対応しているプライマリ IDE 用のケーブルに接続してください。

### ■ SCSI ハードディスクについて

- OS を起動させるハードディスクは、必ず SCSI-ID を 0 番に設定してください。
- SCSI-ID の 0 ~ 15 番は重ならないように設定してください。

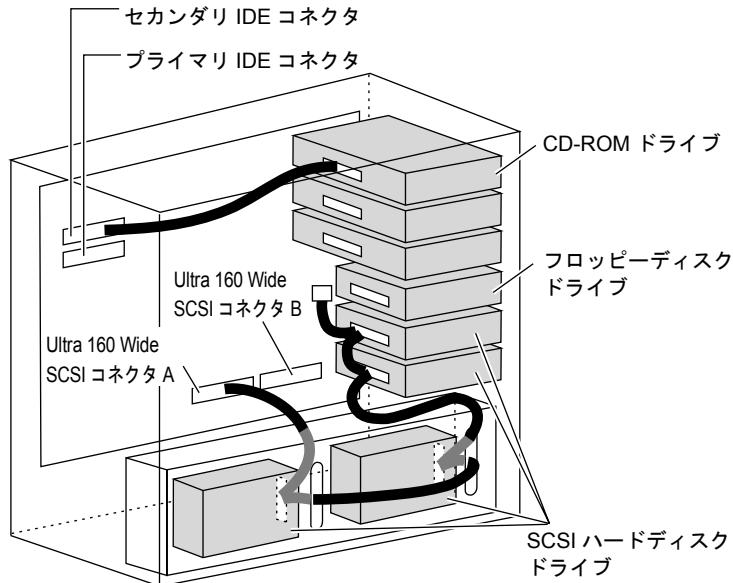
#### POINT

- ▶ SCSI-ID の 7 番は、オンボード SCSI Controller が使用します。

## ■ サイドディスクベイへの SCSI ハードディスクドライブの取り付けについて

- 信号ケーブルはサイドディスクベイの穴から出し入れしながら、以下のように接続してください。

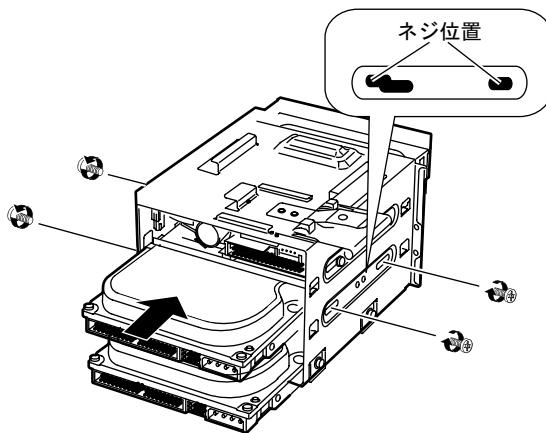
[接続例：SCSI ハードディスクドライブを4台接続する場合]



- 電源ケーブルをサイドディスクベイの SCSI ハードディスクドライブに接続するときは、添付の電源ケーブルのうち長い方を接続してください。

## ハードディスクドライブをフロントディスクベイへ取り付ける

- 1** トップカバーとサイドカバーを取り外します（→ P.36）。
- 2** フロントディスクベイを取り外します。
- 3** ハードディスクドライブの設定（マスタ／スレーブ／SCSI-ID の設定など）を行います。
- 4** ハードディスクドライブをフロントディスクベイに取り付け、ネジで固定します。



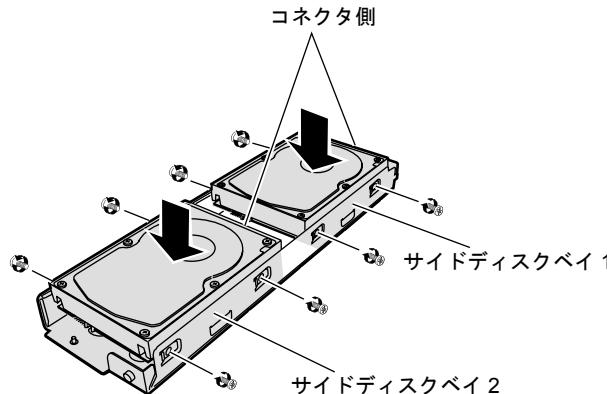
- 5** 信号ケーブルおよび電源ケーブルのコネクタをドライブに接続します。
- 6** フロントディスクベイを取り付けます。
- 7** サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

### POINT

- ▶ 必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。

## ハードディスクドライブをサイドディスクベイへ取り付ける

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します（→P.36）。
- 2 サイドディスクベイを取り外します。
- 3 ハードディスクドライブの設定（SCSI ID の設定など）を行います。
- 4 サイドディスクベイにハードディスクドライブを取り付け、ネジで固定します。



- 5 信号ケーブルおよび電源ケーブルのコネクタをドライブに接続します。
- 6 サイドディスクベイを取り付けます。
- 7 サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

### POINT

- ▶ サイドディスクベイには、SCSI ハードディスクのみ取り付けることができます（IDE ハードディスクを取り付けることはできません）。

## 第4章

### BIOS

# 4

BIOS セットアップについて説明しています。また、本ワークステーションのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは .....	68
2 操作方法 .....	69
3 メニュー詳細 .....	72

# 1 BIOS セットアップとは

システム BIOS セットアップは、「CMOS Setup ユーティリティ」と呼ばれるプログラムを使用します。

CMOS Setup ユーティリティはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションでは、必要最小限のことはお買い求めのときにすでに設定されています。次の場合のみ設定を行う必要があります。

- ハードディスクドライブなどの記憶装置を取り外したとき、または取り付けたとき
- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- メッセージが表示されたとき

## POINT

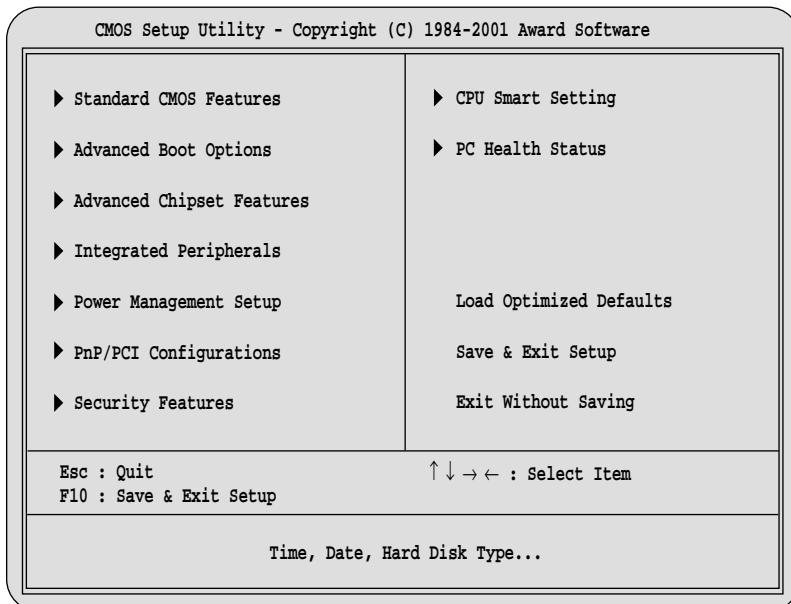
- ▶ CMOS Setup ユーティリティで設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、バッテリによって記録した内容を保存しています。CMOS Setup ユーティリティを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、CMOS Setup ユーティリティに関するエラーメッセージが表示されるときは、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリの消耗が考えられますので、弊社担当営業員または担当保守員にご相談ください。

## 2 操作方法

### CMOS Setup ユーティリティを起動する

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 画面左下に「Press TAB to show POST screen, DEL to enter SETUP」と表示されている間に、【DEL】キーを押します。

CMOS Setup ユーティリティの Main メニューが画面に表示されます。



## 各キーの役割

CMOS Setup ユーティリティで使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー、 【→】キー、【←】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。
【Esc】キー	Main メニューでは、設定値を保存せずに CMOS Setup ユーティリティを終了します。その他のメニューでは前画面に戻ります。
【+】キー、【-】キー、 【Page Up】キー、 【Page Down】キー	選択した項目の設定値を変更します。
【F1】キー	ヘルプ画面を表示します。
【F2】キー	選択された項目のヘルプを表示します。【Esc】キーを押すと、ヘルプを終了します。
【F5】キー	変更された設定値を変更前の設定値に戻します。
【F6】キー	パラメータを最小構成に設定します。この設定は、システムにトラブルが発生した場合に使用します。通常のシステム運用時には選択しないでください。
【F7】キー	工場出荷設定時のシステムに最適な設定に戻します。
【F10】キー	設定値を保存し、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

### POINT

- ▶ CMOS Setup ユーティリティの設定項目を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておくか、変更した画面のページを印刷してください。  
本ワークステーションのパラレルポートにプリンタが接続されていれば、【Shift】キーを押しながら【Print】キーを押すことで、画面に表示されているページを印刷できます。

## CMOS Setup ユーティリティを終了する

CMOS Setup ユーティリティの終わりかたは、次のとおりです。

### ■ 設定値を保存して終了する

- 1 【F10】キーを押します。または Main メニューで、【↑】【↓】【→】【←】キーを使用して「Save & Exit Setup」を選択し、【Enter】キーを押します。  
「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?」というメッセージが表示されます。
- 2 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。  
設定値が保存され、CMOS Setup ユーティリティが終了します。

## ■ 設定値を保存せずに終了する

- 1** Main メニュー以外のメニューでは、何度か【Esc】キーを押して Main メニューに戻ります。
- 2** 【Esc】キーを押します。または【↑】【↓】【→】【←】キーを使用して「Exit Without Saving」を選択し、【Enter】キーを押します。  
「Quit Without Saving (Y/N)?」というメッセージが表示されます。
- 3** 【Y】キーを押し、【Enter】キーを押します。  
CMOS Setup ユーティリティが終了します。

## 3 メニュー詳細

CMOS Setup ユーティリティは、13 のメニューから構成されています。各設定項目は、これらのメニューの下に分類されています。

各メニューおよび項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

### □ Standard CMOS Features

本ワークステーションの、日時、ハードディスク、フロッピーディスクなどに関する基本的な設定を行います。

### □ Advanced Boot Options

起動ドライブの選択など、本ワークステーション起動時の各種設定を行います。

### □ Advanced Chipset Features

CPU/ メモリ等に関する設定を行います。

### □ Integrated Peripherals

マザーボード上の入出力装置に関する設定を行います。

### □ Power Management Setup

省電力モードに関する設定を行います。

### □ PnP/PCI Configurations

システムリソースに関する設定を行います。

### □ Security Features

セキュリティに関する設定を行います。

### □ CPU Smart Setting

CPU の情報表示とクロック数設定を行います。

### □ PC Health Status

温度、電圧等の環境情報を表示します。

### □ Load Optimized Defaults

工場出荷時の設定に戻します。

### □ Save & Exit Setup

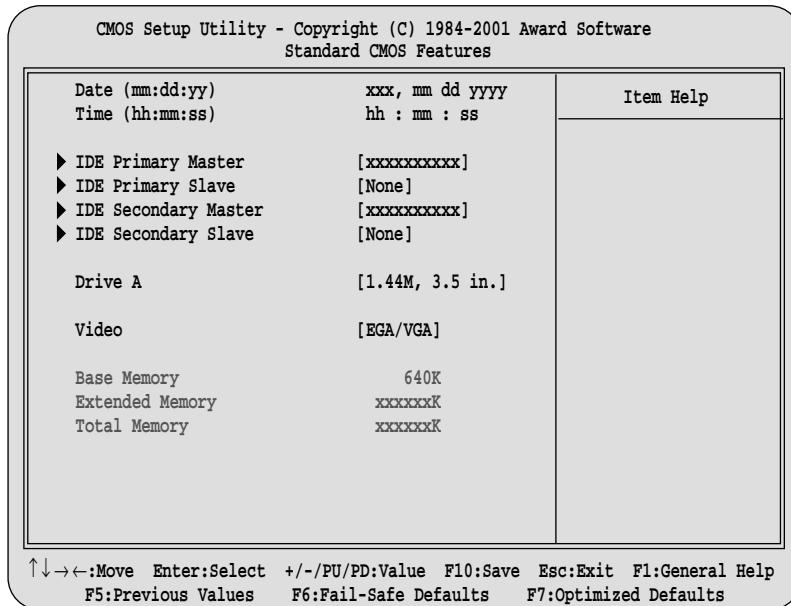
現在の設定値を保存してから、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

### □ Exit Without Saving

現在の設定値を保存せずに、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

## Standard CMOS Features メニュー

本ワークステーションの、日時、ハードディスク、フロッピーディスクなどに関する基本的な設定を行います。



### □ Date

本ワークステーションの日付を示します。日付は"曜日, 月 日 年"の形式で表示されます。現在の日付の設定を変更するには、Dateに新しい日付を入力します。

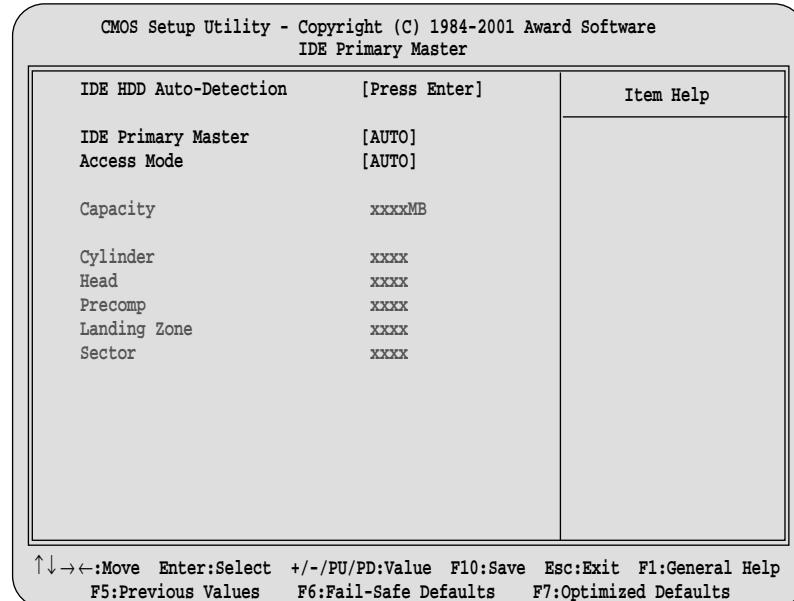
### □ Time

本ワークステーションの時刻を示します。時刻は"時:分:秒"の形式で表示されます。現在の時刻の設定を変更するには、Timeに新しい時刻を入力します。

**□ IDE Primary Master****□ IDE Primary Slave****□ IDE Secondary Master****□ IDE Secondary Slave**

各 IDE 規格のドライブ装置の各種設定を行います。

サブメニューを使って、プライマリ IDE コネクタとセカンダリ IDE コネクタに取り付けたマスターとスレーブのハードディスクなどのタイプ（容量やシリンド数など）を設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューの画面が表示されます。

**POINT**

- ▶ 不適切な転送モードに設定した場合、システムが正しく起動しない場合があります。初期値から変更しないでください。

- IDE HDD Auto-Detection…この項目を選択して【Enter】キーを押すと、本ワークステーションが自動的に IDE ドライブのタイプを認識します。
- IDE Primary Master…IDE デバイスのタイプを設定します。
  - ・ Auto (初期値) : 本ワークステーションが IDE デバイスのタイプを自動的に認識します。IDE デバイスの各種設定を自分で行わない場合に選択します。
  - ・ None : IDE デバイスを使わない場合に選択します。
  - ・ Manual : IDE デバイスのタイプを手動で設定します。

**POINT**

- ▶ 通常は「Auto」の設定でお使いください。

● **Access Mode**…IDE ドライブのアクセスモードを設定します。

IDE Primary Master/IDE Primary Slave/IDE Secondary Master/IDE Secondary Slave を Auto または Manual に設定したときに表示される項目です。

Access Mode の設定は、ハードディスクが LBA をサポートした場合にだけ有効になります。

- ・ CHS : CHS 方式を使用します。
- ・ LBA : LBA 方式を使用します。
- ・ Large : Large 方式を使用します。
- ・ Auto (初期値) : アクセスモードを自動設定します。

● **Capacity, Cylinder, Head, Precomp, Landing Zone, Sector**…本ワークステーションが検出したハードディスクの最大容量／シリンド数／ヘッダ数／書き込み補修シリンド番号／HDD ヘッド退避シリンド位置／セクタ数を表示します。

IDE Primary Master/IDE Primary Slave/IDE Secondary Master/IDE Secondary Slave を Manual に設定し、Access Mode を CHS に設定したときに表示される項目です。

**□ Drive A**

フロッピーディスクドライブのタイプ（記録密度とドライブサイズ）が表示されます。表示される値は、以下のとおりです。

- ・ None
- ・ 360KB 5.25-inch
- ・ 1.2MB 5.25-inch
- ・ 720KB 3.5-inch
- ・ 1.44MB 3.5-inch (初期値)
- ・ 2.88MB 3.5-inch

**□ Video**

グラフィックスカードのタイプが表示されます。表示される値は以下のとおりです。

- ・ EGA/VGA (初期値)
- ・ CGA 40
- ・ CGA 80
- ・ MONO

**□ Base Memory**

1MB 以下の使用可能なベースメモリサイズが表示されます。

**□ Extended Memory**

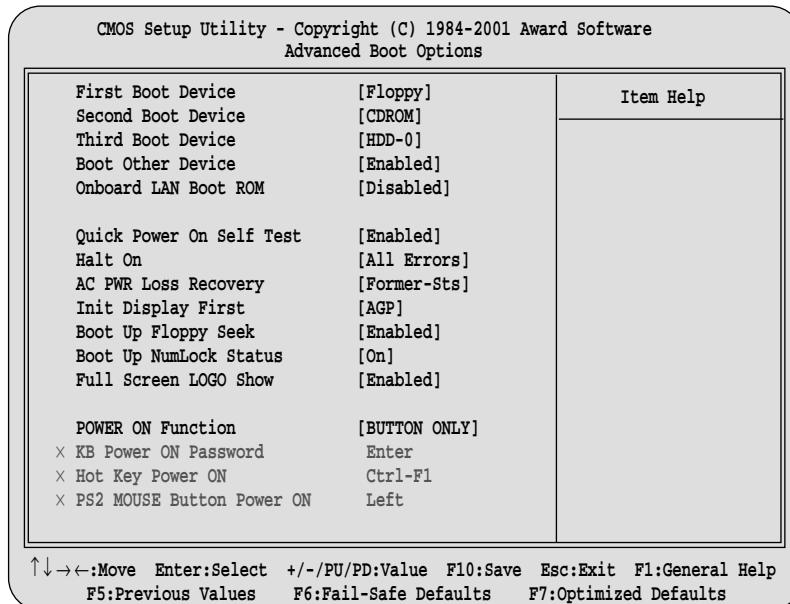
1MB 以上のメモリサイズが表示されます。

**□ Total Memory**

総メモリサイズが表示されます。

## Advanced Boot Options メニュー

本ワークステーション起動時の各種設定を行います。



### □ First Boot Device (初期値 : Floppy)

### □ Second Boot Device (初期値 : CD-ROM)

### □ Third Boot Device (初期値 : HDD-0)

起動ドライブの優先順位を設定します。

優先順位は First Boot Device、Second Boot Device、Third Boot Device の順です。

- Floppy : フロッピーディスクドライブから起動します。
- LS120 : LS-120 から起動します（本ワークステーションではサポートしておりません）。
- HDD-0 : プライマリマスターに接続された IDE ハードディスクドライブから起動します。
- SCSI : SCSI ハードディスクドライブから起動します。
- CDROM : CD-ROM ドライブから起動します。
- HDD-1 : プライマリスレーブに接続された IDE ハードディスクドライブから起動します。
- HDD-2 : セカンダリマスターに接続された IDE ハードディスクドライブから起動します。
- HDD-3 : セカンダリスレーブに接続された IDE ハードディスクドライブから起動します。
- ZIP100 : ZIP ドライブより起動します。（本ワークステーションではサポートしておりません）。
- LAN : オンボード LAN コントローラのネットワークより起動します。
- Disable : 起動デバイスを指定しません。

### POINT

- ▶ CD-ROM からの起動にはブート可能な OS の入った CD-ROM が必要となります。  
一度電源を入れたあと、CD-ROM ドライブに CD-ROM をセットしてから再起動してください。

## □ Boot Other Device

本ワークステーションを、通常のブート順序以外の装置から起動できるようにするかどうかを設定します。

- **Disabled** : 起動できません。
- **Enabled** (初期値) : 起動できます。

## □ Onboard LAN Boot ROM

オンボード LAN チップの Boot ROM を起動するかどうかを設定します。

- **Disabled** (初期値) : 起動しません。
- **Enabled** : 起動します。

## □ Quick Power On Self Test

システムを起動したあと、2回目以降の再起動時に POST (Power On Self Test) を行うかどうかを設定することで、Quick Boot を行うかどうかを設定します。

- **Disabled** : 再起動時に POST を行います。
- **Enabled** (初期値) : 再起動時に POST を行いません。Quick Boot します。

## □ Halt On

どのような種類のエラーが発生したときにシステムを停止するかを設定します。

- **All Errors** (初期値) : すべてのエラーに対してシステムを停止します。
- **No Errors** : エラーが発生しても、システムを停止しません。
- **All, But Keyboard** : キーボード以外のエラー発生時にシステムを停止します。
- **All, But Diskette** : フロッピーディスク以外のエラー発生時にシステムを停止します。
- **All, But Disk/Key** : キーボードおよびフロッピーディスク以外のエラー発生時にシステムを停止します。

## □ AC PWR Loss Recovery

停電などから復旧したときに電源を自動的に入れるかどうかを設定します。

- **Always-Off** : 電源が入らないようにします。
- **Always-On** : 電源が入るようにします。
- **Former-Sts** (初期値) : 停電などが起きる前の状態にします。

## □ Init Display First

マルチディスプレイ環境時、最初にブートされるグラフィックスカードを選択します。

- **PCI Slot** : 最初に PCI スロットのグラフィックスカードをブートします。
- **AGP** (初期値) : 最初に AGP のグラフィックスカードをブートします。

## □ Boot Up Floppy Seek

起動時に、システムが最初にフロッピーディスクを読み込みに行くかどうかを設定します。

- **Disabled** : フロッピーディスクの読み込みを行いません。
- **Enabled** (初期値) : フロッピーディスクの読み込みを行います。

## □ Boot Up Numlock Status

起動したあとに、キーボードを Num Lock 状態にするかどうかを設定します。

- **Off** : キーボードを Num Lock 状態にしません。
- **On** (初期値) : キーボードを Num Lock 状態にします。

#### □ Full Screen LOGO Show

POST 時にサイレントブート (CELSIUS ロゴの表示) を行うかどうかを設定します。サイレントブートを行うと、POST の途中経過は画面には表示されません。

- **Disabled** : サイレントブートを行いません。
- **Enabled** (初期値) : サイレントブートを行います。

#### □ POWER ON Function

本ワークステーションの電源を入れる方法を選択します。

- **Password** : パスワードを入力して電源を入れることができます。
- **Hot KEY** : ホットキーを使って電源を入れることができます (未サポート)。
- **Any KEY** : 任意のキーを押したときに、電源を入れることができます (未サポート)。
- **BUTTON ONLY (初期値)** : 電源ボタンを押したときにのみ、電源を入れることができます。
- **Keyboard 98** : 電源ボタン付きキーボードを使って、電源を入れることができます (未サポート)。

#### ○ POINT

- ▶ 本ワークステーションでは、電源ボタン付きのキーボードはサポートしていません。

#### □ KB Power ON Password

電源を入れるときに入力するパスワードを設定します。この項目を選択して **【Enter】** キーを押すと、パスワードを入力できます。

この項目は、「POWER ON Function」で「Password」が選択されている場合に設定できます。

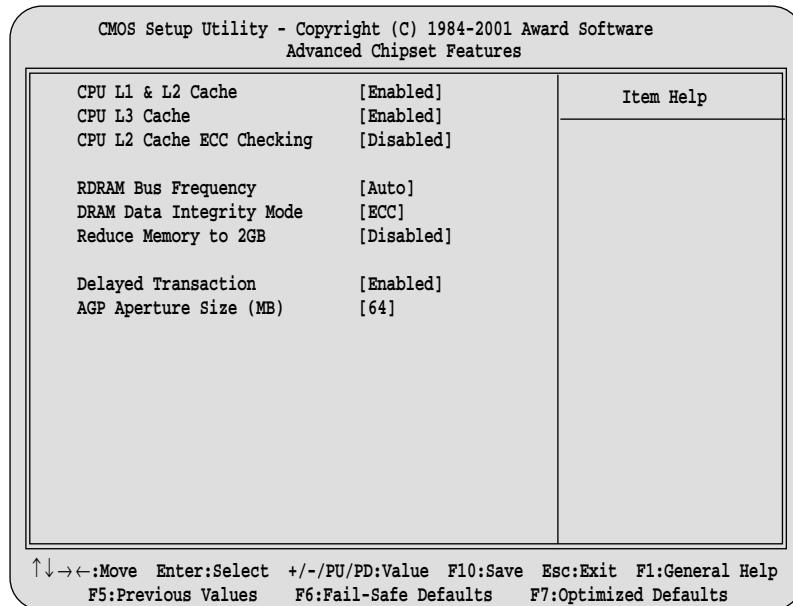
#### □ Hot Key Power ON

電源を入れるときに使用するホットキー (**【Ctrl】+【F1】～【Ctrl】+【F12】** キー) を選択します。この項目は、「POWER ON Function」で「Hot KEY」が選択されている場合に設定できます。

- **Ctrl-F1** / **Ctrl-F2** / **Ctrl-F3** / **Ctrl-F4** / **Ctrl-F5** / **Ctrl-F6** / **Ctrl-F7** / **Ctrl-F8** / **Ctrl-F9** / **Ctrl-F10** / **Ctrl-F11** / **Ctrl-F12**

## Advanced Chipset Features メニュー

CPU やメモリなどに関する詳細を設定します。



### □ CPU L1 & L2 Cache

1 次キャッシュと 2 次キャッシュを使用するかどうかを設定します。

- Disabled : 1 次キャッシュと 2 次キャッシュを使用しません。
- Enabled (初期値) : 1 次キャッシュと 2 次キャッシュを使用します。

### □ CPU L3 Cache

3 次キャッシュを使用するかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : 3 次キャッシュを使用しません。
- Enabled : 3 次キャッシュを使用します (本ワークステーションでは、3 次キャッシュをサポートしておりません)。

### □ CPU L2 Cache ECC Checking

プロセッサと内部2次キャッシュの間でのデータエラー検出および訂正を行うかどうかを設定します。

- Enabled (初期値) : データエラー検出および訂正を行います。
- Disabled : データエラー検出および訂正を行いません。

### □ RDRAM Bus Frequency

メインメモリのバスクロック数を設定します。

- Auto (初期値) : バスクロック数を自動設定します。
- 400 MHz : バスクロック数を 400 MHz に設定します。
- 300 MHz : バスクロック数を 300 MHz に設定します。

#### □ **DRAM Data Integrity Mode**

メモリデータの保護モードを設定します。

- Non-ECC : ECC なしメモリの場合に選択します。
- ECC (初期値) : ECC 付きメモリの場合に選択します。

#### □ **Reduce Memory to 2GB**

メインメモリが 2GB 以上搭載されている場合、強制的に認識するメモリ容量を 2GB に縮小させるかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : 認識するメモリ容量を 2GB に縮小しません。
- Enabled : 認識するメモリ容量を、強制的に 2GB に縮小します。

#### POINT

- ▶ Windows NT をインストールする場合は、必ず [Enabled] に設定してください。通常は、[Disabled] から変更しないでください。

#### □ **Delayed Transaction**

システムの効率を上げるために、ISA バスのアクセス中に PCI バスを解放するかどうかを設定します。

- Disabled : PCI バスを解放します。
- Enabled (初期値) : PCI バスを解放しません。

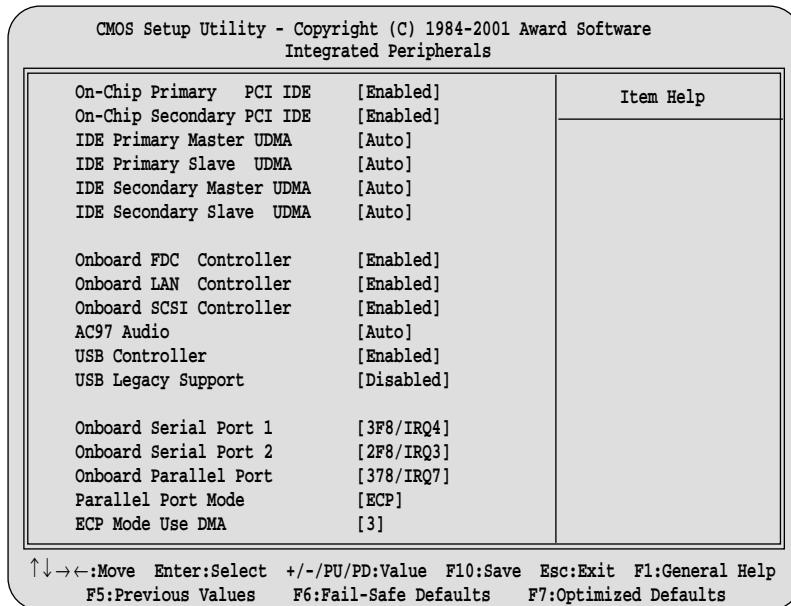
#### □ **AGP Aperture Size (MB)**

AGP カードを使用している場合に、グラフィックスアーチャのサイズ (MB) を設定します。この機能を使用して、使用可能なビデオメモリを拡大ができます。

- 4 / 8 / 16 / 32 / 64 (初期値) / 128 / 256

## Integrated Peripherals メニュー

マザーボード上の入出力装置に関する設定を行います。



### □ On-Chip Primary PCI IDE

プライマリ IDE コネクタを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : プライマリ IDE コネクタを無効にします。
- Enabled (初期値) : プライマリ IDE コネクタを有効にします。

### □ On-Chip Secondary PCI IDE

セカンダリ IDE コネクタを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : セカンダリ IDE コネクタを無効にします。
- Enabled (初期値) : セカンダリ IDE コネクタを有効にします。

### □ IDE Primary Master UDMA

### □ IDE Primary Slave UDMA

### □ IDE Secondary Master UDMA

### □ IDE Secondary Slave UDMA

各 IDE コネクタの Ultra DMA モードを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : Ultra DMA モードを無効にします。
- AUTO (初期値) : Ultra DMA モードを有効にします。

### □ Onboard FDC Controller

FDC コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : FDC コントローラを無効にします。

- Enabled (初期値) : FDC コントローラを有効にします。

#### □ Onboard LAN Controller

LAN コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : LAN コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値) : LAN コントローラを有効にします。

#### □ Onboard SCSI Controller

SCSI コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : SCSI コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値) : SCSI コントローラを有効にします。

#### □ AC97 Audio

マザーボード上のオーディオコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Auto (初期値) : オーディオコントローラを有効にします。
- Disabled : オーディオコントローラを無効にします。

#### □ USB Controller

USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : USB コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値) : USB コントローラを有効にします。

#### □ USB Legacy Support

Windows NT など USB をサポートしていない OS で USB キーボードまたは USB マウスを使用できるようにするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : USB デバイスを使用できないようにします。
- Enabled : USB デバイスを使用できるようにします。

#### □ Onboard Serial Port 1

シリアルポート 1 の I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- Disabled : シリアルポート 1 を無効にします。
- 3F8h/IRQ4 (初期値)
- 2F8h/IRQ3
- 3E8h/IRQ4
- 2E8h/IRQ3
- Auto : I/O アドレスと割り込み要求を自動的に設定します。

#### □ Onboard Serial Port 2

シリアルポート 2 の I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- Disabled : シリアルポート 2 を無効にします。
- 3F8h/IRQ4
- 2F8h/IRQ3 (初期値)
- 3E8h/IRQ4
- 2E8h/IRQ3
- Auto : I/O アドレスと割り込み要求を自動的に設定します。

#### □ Onboard Parallel Port

パラレルポートの I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- **Disabled** : パラレルポートを無効にします。
- 378/IRQ7 (初期値)
- 278/IRQ5
- 3BC/IRQ7

#### □ Parallel Port Mode

パラレルポートに接続する装置の種類を設定します。

- **SPP** : SPP (Standard Parallel Port) 規格に対応した周辺装置を接続するときに選択します。
- **EPP** : EPP (Enhanced Parallel Port) 規格の周辺装置を接続するときに選択します。
- **ECP (初期値)** : ECP (Enhanced Capability Port) 規格の周辺装置を接続するときに選択します。
- **ECP+EPP** : 双方向モードを使う周辺装置を接続するときに選択します。

#### □ ECP Mode Use DMA

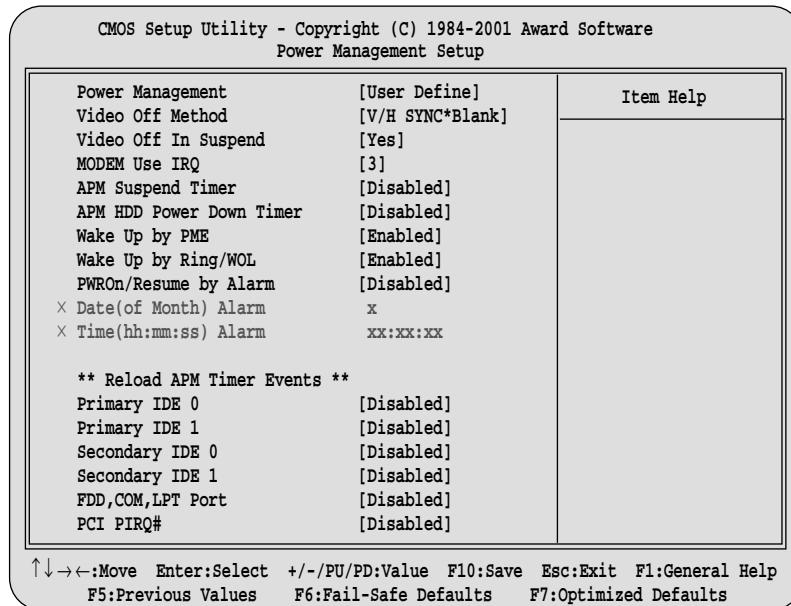
ECP 規格の周辺装置に DMA 転送を行う場合の DMA チャネルを設定します。

この項目は、「Parallel Port Mode」で「ECP」または「ECP+EPP」が選択されているときに設定できます。

- 1
- 3 (初期値)

## Power Management Setup メニュー

省電力モードに関する設定を行います。



### □ Power Management

省電力モードのレベルを設定します。

- User Define (初期値) : 省電力モードのパラメータを手動で設定します。設定できるパラメータは「APM Suspend Timer」と「APM HDD Power Down Timer」です。
- Min Saving : 最も弱い省電力モードに設定します。省電力モードへの移行時間は 1 時間です。
- Max Saving: 最も強い省電力モードに設定します。省電力モードへの移行時間は1分です。

### □ Video Off Method

省電力モード時のビデオオフ機能を設定します。

- Blank Screen : スクリーンを消します。省電力機能のないディスプレイを使用する場合に選択します。
- V/H SYNC+Blank (初期値) : グラフィックスカードからディスプレイへの信号をオフにし、スクリーンを消します。
- DPMS : グラフィックスカードの DPMS (Display Power Management System) 機能を使って、スクリーンを消します。

### □ Video Off In Suspend

サスペンドモード時に、ディスプレイへの出力をオフにするかどうかを設定します。

- No : ディスプレイに出力します。
- Yes (初期値) : ディスプレイへの出力をオフにします。

### □ MODEM Use IRQ

電源管理に使用するモデムの割り込み要求番号を設定します。

- ・NA : 割り込み要求をしません。電源管理にモデムを使用しません。
- ・3 (初期値)
- ・4
- ・5
- ・7
- ・9
- ・10
- ・11

#### □ APM Suspend Timer

APM (Advanced Power Management) でサスPENDモードに移行するまでの時間（分）を設定します。

この項目は、「Power Management」で「User Define」を選択した場合に設定できます。

- ・Disabled (初期値) : サスPENDモードに移行しません。
- ・1 / 2 / 4 / 8 / 12 / 20 / 30 / 40 Min / 1 Hour

#### □ APM HDD Power Down Timer

APM でハードディスクドライブの電源を切るまでの時間（分）を設定します。

この項目は、「Power Management」で「User Define」を選択した場合に設定できます。

- ・Disabled (初期値) : ハードディスクドライブの電源を切りません。
- ・1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11 / 12 / 13 / 14 / 15 Min

#### □ Wake Up by PME

PME (Power Management Enable) 信号から電源を入れるかどうかを設定します。

- ・Disabled : PME 信号から電源を入れません。
- ・Enabled (初期値) : PME 信号から電源を入れます。

#### □ Wake Up by Ring/WOL

Wake On Ring または Wake On LAN で電源を入れるかどうかを設定します。

- ・Disabled : Wake On Ring または Wake On LAN で電源を入れません。
- ・Enabled (初期値) : Wake On Ring または Wake On LAN で電源を入れます。

#### □ PWROn/Resume by Alarm

アラームで電源を入れたりリジュームしたりするかどうかを設定します。

- ・Disabled (初期値) : アラームで電源を入れたりリジュームしたりしません。
- ・Enabled : アラームで電源を入れたりリジュームしたりします。

#### □ Date(of Month) Alarm

アラームの日付（0～31日）を設定します。この項目を選択して【Enter】キーを押すと、日付を入力できます。

この項目は、「PWROn/Resume by Alarm」で「Enabled」を選択した場合に設定できます。

#### □ Date(hh:mm:ss) Alarm

アラームの時刻を設定します。この項目を選択して【Enter】キーを押すと、時刻を入力できます。

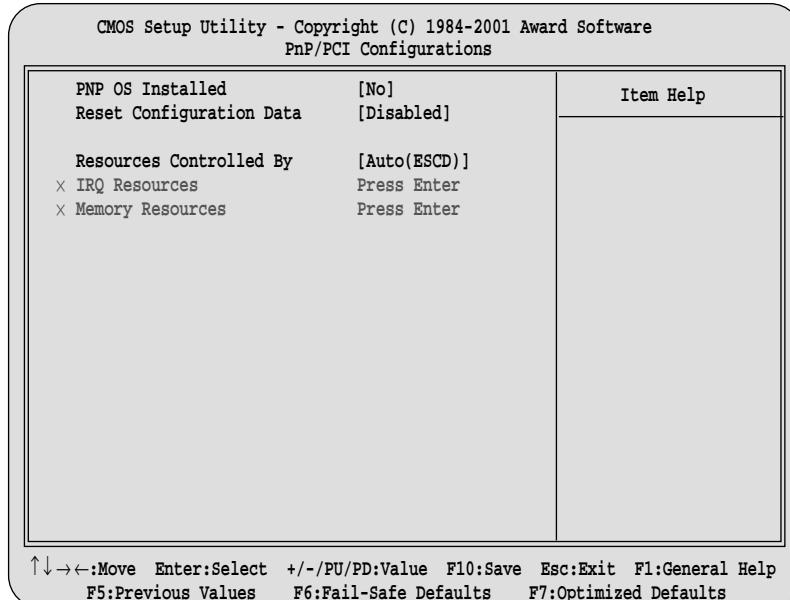
この項目は、「PWROn/Resume by Alarm」で「Enabled」を選択した場合に設定できます。

### □ Reload APM Timer Events

- Primary IDE 0
- Primary IDE 1
- Secondary IDE 0
- Secondary IDE 1…IDE コネクタに接続されている機器が APM サスペンドモードに入るまでの時間計測を、リセットするかどうかを設定します。
  - Disabled (初期値) : リセットしません。
  - Enabled : リセットします。
- FDD,COM,LPT Port…フロッピーディスクドライブ、COM ポートや LPT ポートに接続されている機器が APM サスペンドモードに入るまでの時間計測を、リセットするかどうかを設定します。
  - Disabled (初期値) : リセットしません。
  - Enabled : リセットします。
- PCI PIRQ#…PCI に接続されたデバイスが APM スペンドモードに入るまでの時間計測を、リセットするかどうかを設定します。
  - Disabled (初期値) : リセットしません。
  - Enabled : リセットします。

## PnP/PCI Configurations メニュー

システムリソースに関する設定を行います。



### □ Reset Configuration Data

ESCD (Extended System Configuration Data) に保存されている Plug & Play の情報を、起動時にリセットするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : リセットしません。
- Enabled : リセットします。

## □ Resources Controlled By

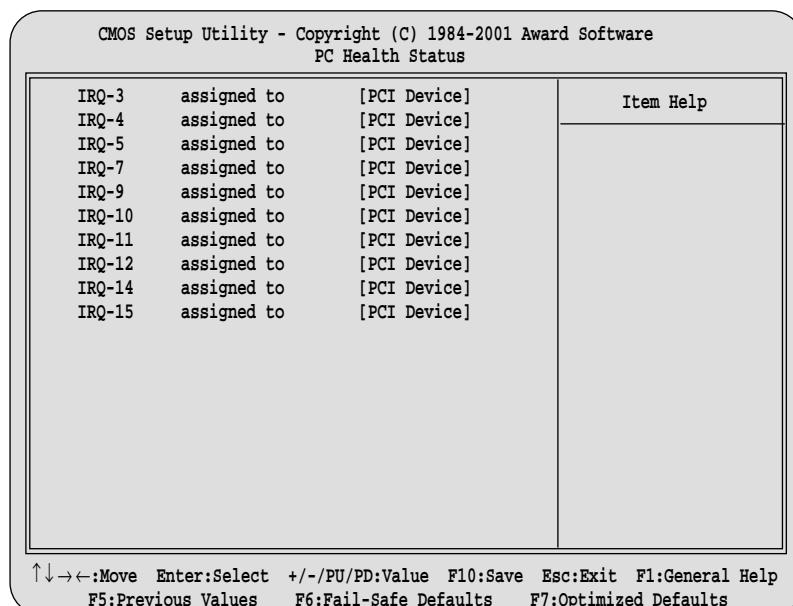
各装置に割り当てる割り込み要求や DMA、I/O アドレスなどのリソースを、Plug & Play により自動的に割り当てるか手動で割り当てるかを選択します。

- Auto(ESCD) (初期値) 自動的に割り当てる。
- Manual : 手動で割り当てる。

## □ IRQ Resources

各装置に割り当てる割り込み要求を設定します。

この項目は、「Resources Controlled By」で「Manual」が選択されている場合に設定できます。この項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。



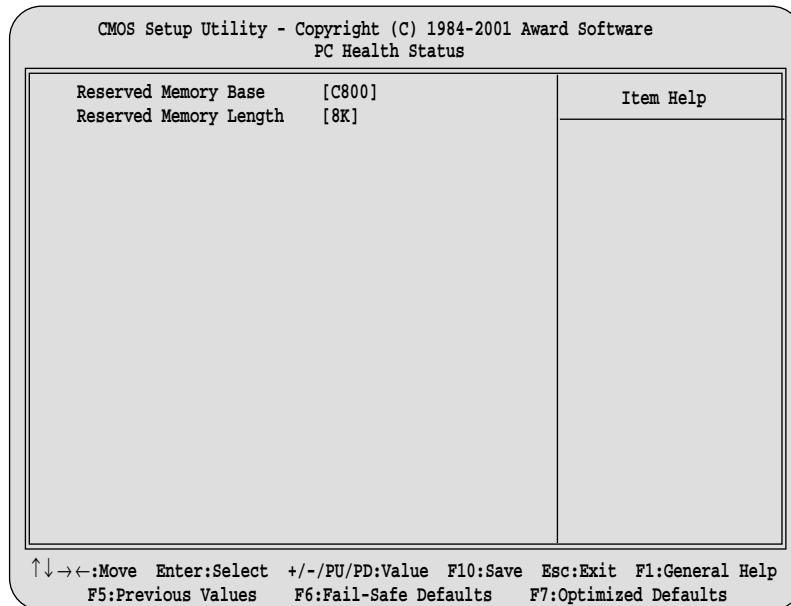
- IRQ-3/IRQ-4/IRQ-5/IRQ-7/IRQ-9/IRQ-10/IRQ-11/IRQ-12/IRQ-14/IRQ-15 assigned to…各割り込み要求を割り当てる。
  - PCI Device : 選択した割り込み要求を PCI スロットに接続された機器に割り当てる。
  - Reserved : 割り込み要求を割り当てません。

## □ Memory Resources

メモリに関するパラメータを設定します。

この項目は、「Resources Controlled By」で「Manual」が選択されている場合に設定できます。

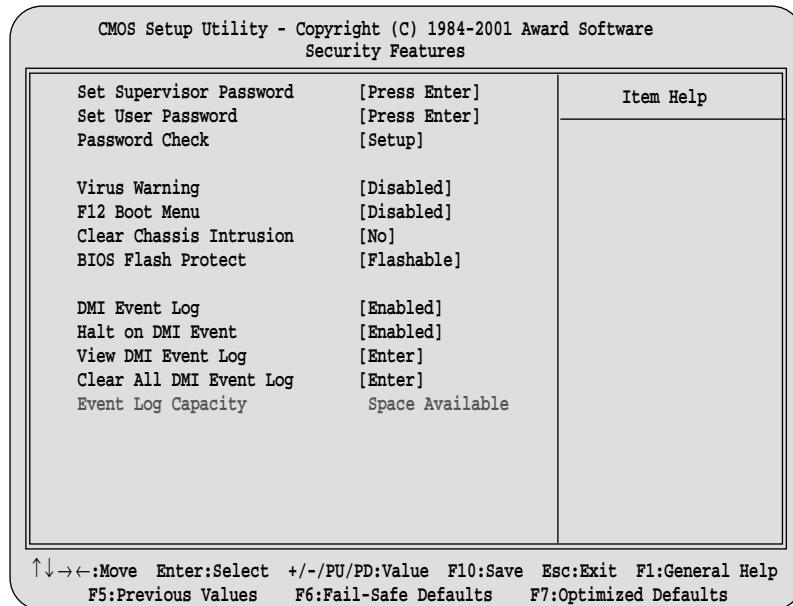
この項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。



- **Reserved Memory Base**…プラグアンドプレイに対応していないデバイスのためのローメモリリソースを確保するアドレスを設定します。
  - N/A : ローメモリリソースを確保しません。
  - C800 / CC00 / D000 / D400 / D800 / DC00
- **Reserved Memory Length**…プラグアンドプレイに対応していないデバイスのために確保するローメモリ容量を設定します。
  - 8 / 16 / 32 / 64 K

## Security Features メニュー

セキュリティに関する設定を行います。



### □ Set Supervisor Password

システム管理者用パスワードを設定します。この項目を選択して【Enter】キーを押すと、パスワードを入力できます。

### □ Set User Password

一般利用者用パスワードを設定します。この項目を選択して【Enter】キーを押すと、パスワードを入力できます。

### □ Password Check

パスワード設定をした場合、いつパスワードを要求するかを設定します。

- **Setup** (初期値) : BIOS 設定画面に入るときにパスワードを要求します。
- **System** : BIOS 設定画面に入るとき、またはシステム起動時にパスワードを要求します。

### □ Virus Warning

ウィルスからシステムを保護するために、ハードディスクドライブのブートセクタとパーティションテーブルへのデータの書き込みを禁止するかどうかを設定します。

- **Enabled** : 書き込みを禁止します。
- **Disabled** (初期値) : 書き込みを禁止しません。

### □ F12 Boot Menu

装置起動時 (POST 時)、キーボードの【F12】キーを押したときにブートメニューを表示させるかどうかを設定します。

- **Disabled** (初期値) : ブートメニューを表示しません。
- **Enabled** : ブートメニューを表示します。

## POINT

- ▶ 装置起動時ロゴ画面が表示されると【F12】キーを押すタイミングが見えないため、装置起動時に【TAB】キーを押してロゴ画面を消してから、【F12】キーを押すことをお勧めします。

### □ Clear Chassis Intrusion

本体カバーが開けられたという警告がシステムから表示された場合、警告に関する情報を消去するかどうかを設定します。

一度警告が表示されると、本体カバーを閉じたあとも警告が表示され続けます。この場合、設定を「Yes」にして警告情報を消去します。

- No (初期値) : 警告情報を消去しません。
- Yes : 警告情報を消去します。

### □ BIOS Flash Protect

BIOS 書き換えを許可するかどうかを設定します。

- Non-Flash : BIOS 書き換えを許可しません。
- Flashable (初期値) : BIOS 書き換えを許可します。

### □ DMI Event Log

装置起動時 (POST 時) に検出したエラーなどのイベントロギング処理を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled : 無効にします。
- Enabled (初期値) : 有効にします。

### □ Halt on DMI Event

装置起動時 (POST 時) にエラーを検出したとき、システムを止めるかどうかを設定します。

- Disabled : システムを止めません。
- Enabled (初期値) : システムを止めます。

### □ View DMI Event Log

この項目を選択して【Enter】キーを押すと、イベントログが表示されます。

### □ Clear All DMI Event Log

この項目を選択して【Enter】キーを押すと、イベントログ消去確認のメッセージが表示されます。

【Y】キーを押し、【Enter】キーを押すとイベントログが消去されます。

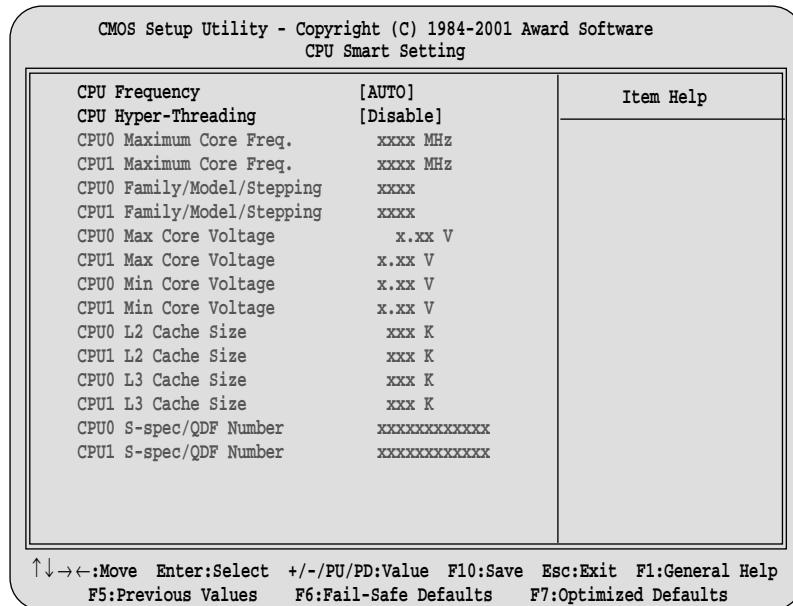
【N】キーを押し、【Enter】キーを押すとイベントログを消去せずに、Security Features メニューへ戻ります。

### □ Event Log Capacity

イベントログ格納領域が残っているかどうかを表示します。

## CPU Smart Setting メニュー

CPU の情報表示とクロック数設定を行います。



### □ CPU Frequency

CPU のクロック数を設定します。CPU のクロック数は固定されていて変更できません。通常は「Auto」のまま変更しないでください。

- Auto (初期値) : CPU のクロック数を自動設定します。
- 1.6 GHz/1.7 GHz/1.8 GHz/1.9 GHz/2.0 GHz/2.1 GHz/2.2 GHz/2.3 GHz/2.4 GHz : CPU のクロック数を手動で設定します。

### □ CPU Hyper-Threading

1つの物理プロセッサのリソースを2つの論理プロセッサで共有させるかどうかを設定します。

- Disabled (初期値) : ハイパー・スレッディング・テクノロジーを使用しません。
- Enabled : ハイパー・スレッディング・テクノロジーを使用します。

#### POINT

- ▶ パフォーマンス向上のためには、OS およびアプリケーションが本テクノロジーに対応している必要があります。
- また対応していないアプリケーションでは、パフォーマンスが劣化する場合もあります。

### □ CPU0 Maximum Core Freq.

### □ CPU1 Maximum Core Freq.

CPU の最大クロック数を表示します。「CPU1 Maximum Core Freq.」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

**□ CPU0 Family/Model/Stepping**

**□ CPU1 Family/Model/Stepping**

CPU の Family/Model/Stepping 情報を表示します。

「CPU1 Family/Model/Stepping」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

**□ CPU0 Max Core Voltage**

**□ CPU1 Max Core Voltage**

CPU の最大コア電圧を表示します。「CPU1 Max Core Voltage」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

**□ CPU0 Min Core Voltage**

**□ CPU1 Min Core Voltage**

CPU の最低コア電圧を表示します。「CPU1 Min Core Voltage」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

**□ CPU0 L2 Cache Size**

**□ CPU1 L2 Cache Size**

CPU の L2 キャッシュサイズを表示します。「CPU1 L2 Cache Size」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

**□ CPU0 L3 Cache Size**

**□ CPU1 L3 Cache Size**

CPU の L3 キャッシュサイズを表示します。「CPU1 L3 Cache Size」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

**□ CPU0 S-spec/QDF Number**

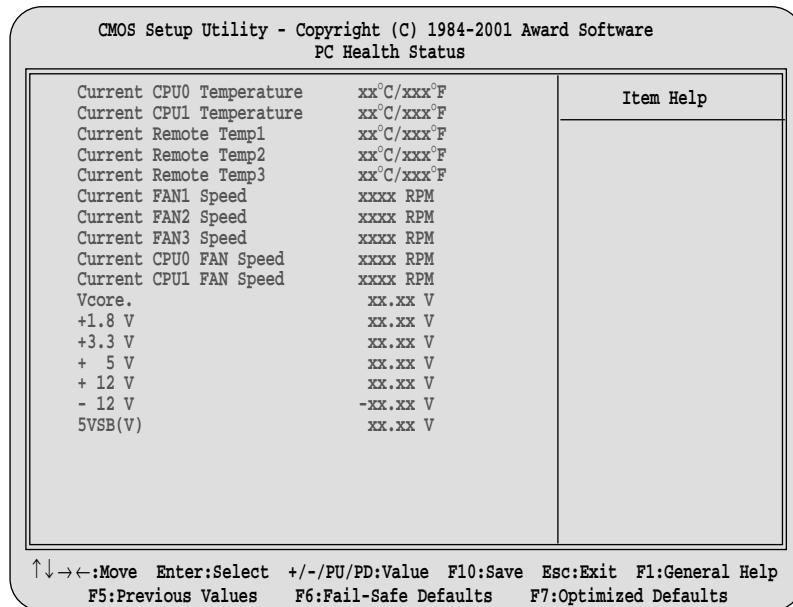
**□ CPU1 S-spec/QDF Number**

CPU の S-spec/QDF Number 情報を表示します。

「CPU1 S-spec/QDF Number」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

## PC Health Status メニュー

温度、電圧等の環境情報を表示します。



### □ Current CPU0 Temperature

### □ Current CPU1 Temperature

現在の CPU の温度を表示します。「Current CPU1 Temperature」は、CPU を 2 つ搭載時のみ表示されます。

### □ Current Remote Temp1

### □ Current Remote Temp2

### □ Current Remote Temp3

マザーボード上の温度を表示します。それぞれの項目に対応するマザーボード上の位置については、「マザーボード」(→ P.16) を参照してください。

### □ Current FAN1/FAN2/FAN3 Speed

現在のファン 1 ~ 3 の回転速度 (rpm) が表示されます。

ファン 1 : 筐体背面ファン (120mm)

ファン 2 : 筐体前面ファン 1 (80mm)

ファン 3 : 筐体前面ファン 2 (120mm)

### □ Current CPU0 FAN Speed

### □ Current CPU1 FAN Speed

CPU ファンの回転数を表示します。

#### □ **Vcore.**

現在の Vcore の電圧が表示されます。

#### □ **+1.8 V**

現在の +1.8 V ラインの電圧が表示されます。

#### □ **+3.3 V**

現在の +3.3 V ラインの電圧が表示されます。

#### □ **+5V**

現在の +5 V ラインの電圧が表示されます。

#### □ **+12 V**

現在の +12 V ラインの電圧が表示されます。

#### □ **-12 V**

現在の -12 V ラインの電圧が表示されます。

#### □ **5VSB(V)**

現在の 5V スタンバイの電圧が表示されます。

## Load Optimized Defaults

---

工場出荷時の設定に戻します。

## Save & Exit Setup

---

現在の設定を保存してから、CMOS Setup ユーティリティを終了します。【Enter】キーを押すと、終了確認のメッセージが表示されます。

【Y】キーを押し、【Enter】キーを押すと終了します。

【N】キーを押し、【Enter】キーを押すと Main メニューに戻ります。

## Exit Without Saving

---

現在の設定を保存せずに、CMOS Setup ユーティリティを終了します。【Enter】キーを押すと、終了確認のメッセージが表示されます。

【Y】キーを押し、【Enter】キーを押すと終了します。

【N】キーを押し、【Enter】キーを押すと Main メニューに戻ります。

## 第 5 章

# SCSI BIOS 設定

内蔵ハードウェアを取り付けたあとに行う、  
SCSI BIOS 設定について説明しています。

1	SCSI BIOS 設定とは .....	96
2	操作方法 .....	97
3	Fast!UTIL ユーティリティのメニューと項目の詳細 .....	99

# 1 SCSI BIOS 設定とは

SCSI BIOS 設定は、「Fast!UTIL ユーティリティ」と呼ばれるプログラムを使用します。

Fast!UTIL ユーティリティは、本ワークステーションとデバイス間の環境を設定します。

本ワークステーションでは、必要最小限のことはお買い求めのときにすでに設定されています。次の場合のみ設定を行う必要があります。

- デフォルト値の変更
- 他のデバイスと競合する可能性のある SCSI デバイスの設定(SCSI ID など)のチェックや変更の必要がある場合
- 新しい SCSI ディスクデバイスを物理フォーマットする場合
- 内蔵 SCSI オプションを取り付けた場合

## 2 操作方法

### Fast!UTIL ユーティリティの操作方法

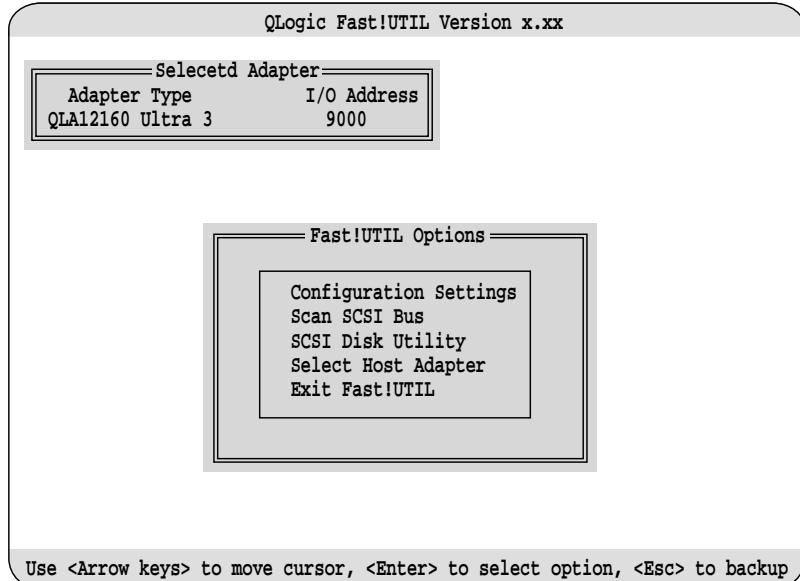
Fast!UTIL ユーティリティの操作方法について説明します。

#### ■ Fast!UTIL ユーティリティを始める

Fast!UTIL ユーティリティの始めかたは次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 POST 実行中に「Press <Ctrl-Q> for Fast!UTIL」と表示されている間に、【Ctrl】+【Q】キーを押します。

Fast!UTIL ユーティリティの Main メニューが画面に表示されます。



#### ■ 設定値を変更する

Fast!UTIL ユーティリティで使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。
【Esc】キー	前画面に戻ります。

### POINT

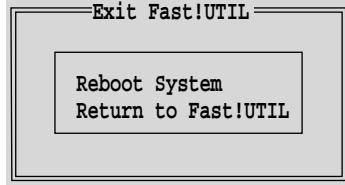
- ▶ Fast!UTIL ユーティリティの設定項目を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておくか、変更した画面のページを印刷してください。
- ▶ 本ワークステーションのパラレルポートにプリンタが接続されていれば、【Shift】キーを押しながら【Print】キーを押すことで、画面に表示されているページを印刷できます。

## ■ Fast!UTIL ユーティリティを終了する

Fast!UTIL ユーティリティの終わりかたは、次のとおりです。

- 1 Main メニュー以外のメニューでは、何度か【Esc】キーを押して Main メニューに戻ります。
- 2 【Esc】キーを押すか、または【↑】【↓】キーを使用して「Exit Fast!UTIL」を選択し、【Enter】キーを押します。

Exit Fast!UTIL メニューが画面に表示されます。



- 3 【↑】【↓】キーを使用して「Reboot System」を選択し、【Enter】キーを押します。Fast!UTIL ユーティリティが終了します。

### 3 Fast!UTIL ユーティリティのメニューと項目の詳細

Fast!UTIL ユーティリティは、5 つのメニューから構成されています。各設定項目は、これらのメニューの下に分類されています。

各メニューおよび項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

- Configuration Settings メニュー

Configuration Settings サブメニューを表示して、SCSI コントローラや SCSI デバイスの設定を変更します。

- Scan SCSI Bus メニュー

SCSI バスをスキャンし、接続されているすべてのデバイスを表示します。

- SCSI Disk Utility メニュー

SCSI デバイスのスキャン後にリストアップされるデバイスを選択し、ローレベルフォーマットやベリファイを行います。

- Select Host Adapter メニュー

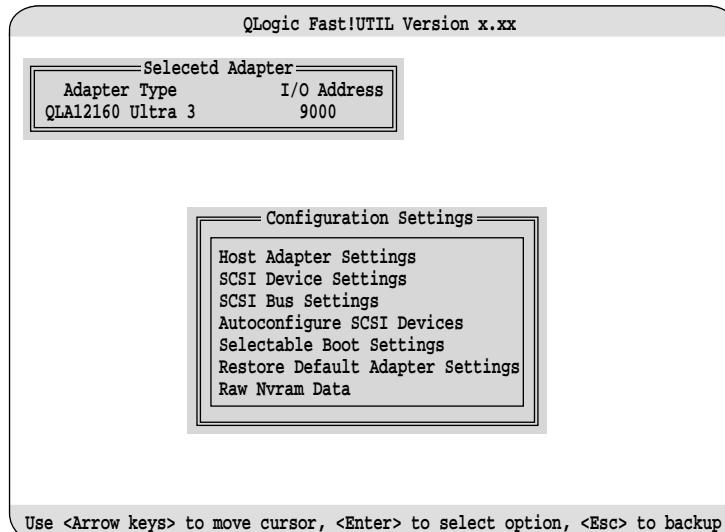
接続されている SCSI ホストアダプタを表示します。

- Exit Fast!UTIL メニュー

Fast!UTIL ユーティリティを終了します。

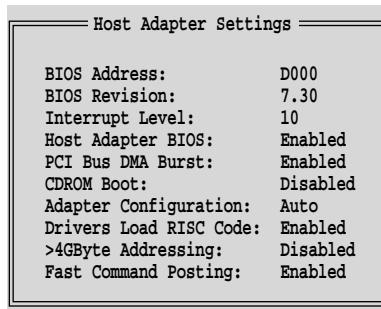
## Configuration Settings メニュー

SCSI コントローラや SCSI デバイスの設定を変更します。



### □ Host Adapter Settings

ホストアダプタの設定を行います。



- BIOS Address…ホストアダプタの BIOS のメモリアドレスを表示します。
- BIOS Revision…ホストアダプタの BIOS のリビジョンを表示します。
- Interrupt Level…ホストアダプタの割り込みレベル (IRQ) を表示します。
- Host Adapter BIOS…ホストアダプタの BIOS を有効にするかどうかを設定します。
  - Disabled (初期値) : 無効にします。
  - Enabled : 有効にします。
- PCI Bus DMA Burst…バースト転送を有効にするかどうかを設定します。
  - Disabled (初期値) : 無効にします。
  - Enabled : 有効にします。
- CDROM Boot…CD-ROM からの起動を有効にするかどうかを設定します。
  - Disabled (初期値) : 無効にします。
  - Enabled : 有効にします。

### POINT

- ▶ SCSI CD-ROM ドライブ(または CD-ROM 読み込み可能なデバイス)と CD-ROM からの起動には、ブート可能な OS の入った CD-ROM が必要となります。

#### ● Adapter Configuration…パラメータの設定方法を選択します。

- ・ Auto (初期値) : ROM BIOS が自動的にパラメータを設定します。
- ・ Manual : 手動で設定します。
- ・ Safe : すべてのパラメータが最小構成に設定されます。

### POINT

- ▶ 「Safe」は、主に SCSI デバイスにトラブル発生した場合に使用するモードです。通常のシステム運用時には選択しないでください。

#### ● Drivers Load RISC Code…RISC ファームウェアをどのようにロードするかを設定します。

- ・ Disabled : システムからロードします。
- ・ Enabled (初期値) : ドライバからロードします。

#### ● >4GByte Addressing…アドレッシングの設定を行います。

- ・ Disabled (初期値) : 搭載しているメモリが 4GB より少ない場合に選択します。
- ・ Enabled : 4GB 以上メモリを搭載している場合に選択します。

#### ● Fast Command Posting…割り込み数を最小限にすることでコマンド実行時間を減少させるかどうかを設定します。

- ・ Disabled : 割り込み数を最小限にしません。
- ・ Enabled (初期値) : 割り込み数を最小限にします。

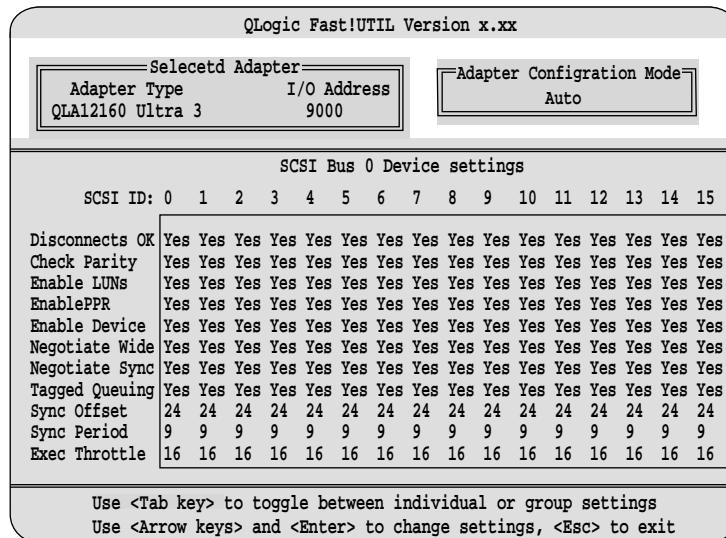
## □ SCSI Device Settings

各 SCSI デバイスのパラメータを設定します。ホストアダプタの設定を行ったあとで設定してください。

以下のパラメータは、「Host Adapter Settings」の「Adapter Configuration」が「Manual」に設定されている場合に変更することができます。

- ・ Enable PPR
- ・ Enable Device
- ・ Negotiate Wide
- ・ Negotiate Sync
- ・ Tagged Queuing
- ・ Sync Offset
- ・ Sync Period
- ・ Exec Throttle

SCSI バスを選択して【Enter】キーを押すと、以下のサブメニューの画面が表示されます。



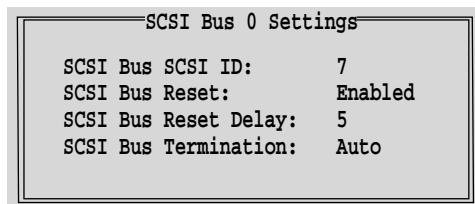
- **Disconnects OK**…SCSIデバイスをホストアダプタから任意に切断できるようにするかどうかを設定します。
  - ・ Yes (初期値) : 切断できるようにします。
  - ・ No : 切断できません。
- **Check Parity**…SCSIのパリティチェックを有効にするかどうかを設定します。
  - ・ Yes (初期値) : 有効にします。
  - ・ No : 無効にします。
- **Enable LUNs**…複数の LUN (論理ユニット番号) をサポートするかどうかを設定します。
  - ・ Yes (初期値) : サポートします。
  - ・ No : サポートしません。
- **Enable PPR**…Parallel Protocol Request(PPR) transfer をサポートするかどうかを設定します。
  - ・ Yes (初期値) : サポートします。
  - ・ No : サポートしません。
- **Enable Device**…当該 ID に接続された SCSI デバイスを有効にするかどうかを設定します。
  - ・ Yes (初期値) : SCSI デバイスを有効にします。
  - ・ No : SCSI デバイスを無視します。
- **Negotiate Wide**…16 bit バス幅の Wide SCSI 転送を有効にするかどうかを設定します。
  - ・ Yes (初期値) : 有効にします。
  - ・ No : 無効にします。
- **Negotiate Sync**…同期転送を行うかどうかを設定します。
  - ・ Yes (初期値) : 行います。
  - ・ No : 行いません。
- **Tagged Queueing**…タグ付きコマンドキューをサポートするかどうかを設定します。
  - ・ Yes (初期値) : サポートします。
  - ・ No : サポートしません。
- **Sync Offset**…REQ の最大数を設定します。
  - ・ 00 / 02 / 04 / 06 / 08 / 10 / 12 / 14 / 16 / 18 / 20 / 22 / 24 (初期値)
- **Sync Period**…REQ と ACK の最小間隔を設定します。
  - ・ 9 (初期値) / 10 / 12 / 25 / 40

- Exec Throttle…1つのポートあたりの最大実行コマンド数を設定します。  
・ 1／4／8／16（初期値）／32／64／128／255

#### □ SCSI Bus Settings

SCSI バスに関する設定を行います。

SCSI バスを選択して【Enter】キーを押すと、以下のサブメニューの画面が表示されます。



- SCSI Bus SCSI ID…ホストアダプタの SCSI ID を設定します。通常は初期値の 7 を使用します。  
・ 0／1／2／3／4／5／6／7（初期値）／8／9／10／11／12／13／14／15
- SCSI Bus Reset…起動時、SCSI バスをリセットするかどうかを設定します。  
・ Enabled（初期値）：リセットします。  
・ Disabled：リセットしません。
- SCSI Bus Reset Delay…SCSI バスのリセット後、SCSI バスを有効にするまでの時間（秒）を設定します。  
・ 0／1／2／3／4／5（初期値）／6／7／8／9／10／11／12／13／14／15
- SCSI Bus Termination…SCSI バスのターミネーションを有効にするかどうかを設定します。  
・ Auto（初期値）：自動的にターミネーションの設定を行います。  
・ High only：ハイターミネーションのみ有効にします。  
・ Disabled：ターミネーションを無効にします。  
・ Enabled：ターミネーションを有効にします。

#### □ Autoconfigure SCSI Devices

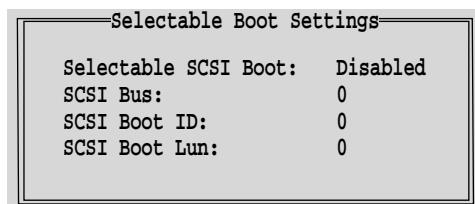
接続されている SCSI デバイスの設定情報をスキャンしたあと、設定を行います。

SCSI バスを選択して【Enter】キーを押すと、SCSI デバイスの現在の設定が読み込まれ、「SCSI Device Settings」サブメニューの画面に表示されます。

設定項目の詳細については、「SCSI Device Settings」（→ P.101）を参照してください。

#### □ Selectable Boot Settings

ブートする SCSI デバイスに関する設定を行います。



- Selectable SCSI Boot…ブートする SCSI デバイスの設定を有効にするかどうかを設定します。
  - ・ No (初期値) : 無効にします。
  - ・ Yes : 有効にします。
- SCSI Bus…ブートする SCSI デバイスの SCSI バスを選択します。
  - ・ 0 (初期値)
  - ・ 1
- SCSI Boot ID…ブートする SCSI デバイスの SCSI ID を選択します。0以外は設定しないでください。
  - ・ 0 (初期値)
- SCSI Boot Lun…「SCSI Boot ID」で選択した SCSI ID の LUN を選択します。
  - ・ 0 (初期値) / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11 / 12 / 13 / 14 / 15

#### □ Restore Default Adapter Settings

ホストアダプタに関する設定値を、初期値に戻して保存します。

「Adapter Defaults Restored」と表示され、何かキーを押すと設定値が初期値に戻り、保存されます。

#### □ Raw Nvram Data

ホストアダプタの NVRAM (Nonvolatile Random Memory) の内容を 16 進表示します。

QLogic Fast!UTIL Version x.xx													
Selected Adapter													
		Adapter Type		I/O Address									
		QLA12160 Ultra 3		9000									
		Raw Nvram Data 00 thru FF Hex =											
Byte Offset	00	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B
	49	53	50	20	01	00	00	00	00	00	00	00	00
	10	44	0F	00	00	01	00	00	00	27	05	00	00
	20	00	01	00	00	00	00	00	00	FD	10	09	38
	30	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
	40	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
	50	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
	60	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
	70	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
	80	92	00	FD	10	09	38	92	00	27	05	00	00
	90	00	01	00	00	00	00	00	00	FD	10	09	38
	A0	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
	B0	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
	C0	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
	D0	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
	E0	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
	F0	92	00	FD	10	09	38	92	00	00	77	10	07
		<Esc> to exit											

## Scan SCSI Bus メニュー

SCSI バスをスキャンして、接続されているすべての SCSI デバイスを表示します。  
SCSI バスを選択して 【Enter】 キーを押すと、以下が表示されます。

Scan SCSI Bus 0			
ID	Vendor	Product	Rev
0		No device present	
1		No device present	
2		No device present	
3		No device present	
4		No device present	
5		No device present	
6		No device present	
7	QLogic	SCSI Host Adapter	
8		No device present	
9		No device present	
10		No device present	
11		No device present	
12		No device present	
13		No device present	
14		No device present	
15		No device present	

## SCSI Disk Utility メニュー

SCSI デバイスに使用するユーティリティを設定します。  
SCSI バスを選択して 【Enter】 キーを押すと、以下のサブメニューが表示されます。

Scan SCSI Bus 0			
ID	Vendor	Product	Rev
0		No device present	
1		No device present	
2		No device present	
3		No device present	
4		No device present	
5		No device present	
6		No device present	
7	QLogic	SCSI Host Adapter	
8		No device present	
9		No device present	
10		No device present	
11		No device present	
12		No device present	
13		No device present	
14		No device present	
15		No device present	

SCSI ID を選択して 【Enter】 キーを押すと、ローレベルフォーマットおよびベリファイが行われます。

- Low-level Format : デバイスの物理フォーマットを行います。
- Verify Disk Media : 媒体の欠陥をチェックします。
- Select Different Disk : SCSI Disk Utility の画面に戻ります。

## Select Host Adapter メニュー

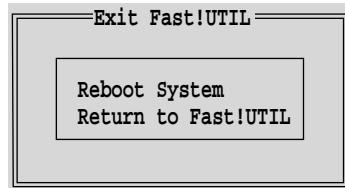
---

接続されている SCSI ホストアダプタを選択できます。  
ただし、本ワークステーションでは、「QLA12160 Ultra 3」のみ表示されます。

## Exit Fast!UTIL メニュー

---

Fast!UTIL ユーティリティを終了します。



「Reboot System」を選択して【Enter】キーを押すと、Fast!UTIL ユーティリティが終了します。  
「Return to Fast!UTIL」を選択して【Enter】キーを押すと、Main メニューに戻ります。

## 第 6 章

# 技術情報

本ワークステーションの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧 .....	108
2 コネクタ仕様 .....	111

# 1 仕様一覧

## 本体仕様

製品名称		CELSIUS670
CPU		Intel® Xeon™ Processor 2.40 GHz (最大2個まで搭載可能)
キャッシュメモリ		1次: Data 8KB / Execution Trace 12KB + 2次 512KB (CPU内蔵)
システムバス		400MHz
BIOS ROM		256KB (フラッシュROM)
メインメモリ		標準 256MB (RDRAM PC800) ECC 対応、SPD付き、最大 4GB ※1
メモリスロット		× 8
フロッピーディスクドライブ		3.5インチ × 1 (2モード)
ハードディスクドライブ		40GB (Ultra DMA/100) ※2
CD ドライブ		CD-ROM 読出 48倍速※3
オーディオ機能	サウンドコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 48kHz 16bit ステレオ 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート
通信機能	LAN	100BASE-TX/10BASE-T
インターフェース	シリアル	非同期 RS-232C × 2 D-SUB9 ピン
	パラレル	セントロニクス準拠 ECP/EPP 対応 D-SUB25 ピン × 1
	キーボード／マウス	Mini-DIN 6pin (キーボード用 × 1、マウス用 × 1)
	USB	USB コネクタ 4 ピン × 4 (USB1.1 準拠) (背面 × 4)
	LAN	RJ-45 × 1
	サウンド	マイク端子 (3.5mm モノラル・ミニジャック)、ラインイン端子 (3.5mm ステレオ・ミニジャック)、ラインアウト端子 (3.5mm ステレオ・ミニジャック)
SCSI		68 ピン (LVD) × 2
障害監視機能※4		カバーセンサー、電圧監視、温度監視、CPU 温度監視、FAN 監視、MME、MSE
拡張スロット数		× 6 AGP Pro50 × 1 (ディスプレイカード搭載済み) PCI (Rev 2.2 準拠) (32bit/33MHz フル) × 3 PCI (Rev 2.2 準拠) (64bit/66MHz フル) × 2
ファイルベイ数		× 7 前面: 5インチファイルベイ × 3 (うち1つにCD-ROM搭載済) 3.5インチフロッピーディスクドライブ搭載済 内部: 3.5インチハードディスクベイ × 4 (うち1つにハードディスク搭載済)
電源／周波数		AC100V 50/60Hz
消費電力	電源切斷時	5W 以下※5
	動作時	通常約 150W 最大約 400W スタンバイ時約 135W ※6
外形寸法		W220mm × D455mm × H470mm
質量		約 17 kg
盗難防止用ロック		あり
使用環境		温度 10 ~ 35 °C 湿度 20 ~ 80% (RH)
保存環境		温度 0 ~ 50 °C 湿度 8 ~ 80% (RH)
DirectX		DirectX8.1 ※7

※1: BIOS/OS で認識可能なメモリ容量は約 3.5GB です。

※2: カスタムメイドオプションのハードディスクを選択している場合、80GB (Ultra DMA/100), 18GB (U160 SCSI), 36GB (U160 SCSI), 73GB (U160 SCSI) となります。

本書に記載のディスク容量は、1MB=1000<sup>2</sup>byte、1GB=1000<sup>3</sup>byte 換算によるものです。1MB=1024<sup>2</sup>byte、1GB=1024<sup>3</sup>byte 換算で Windows 上に表示される実際の容量は、本書に記載のディスク容量より少なくなります。

※3: カスタムメイドオプションで CD-R/RW を選択している場合、書込 24 倍速、書替 10 倍速、読出 32 倍速 (CD-ROM) /22 倍速 (CD-R/RW) です (バッファアンダーラン防止機能あり)。

※4: AOL (Alert on LAN) 未サポート

※5: 電源「オフ」状態のエネルギー消費は、製品の電源プラグをコンセント (AC100V) から抜くことにより回避できます。

※6: ご使用になる機器構成により値は変動します。

※7: CELSIUS Wildcat III 6110 は DirectX7 をサポート

### POINT

- ▶ 本ワークステーションの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

## 省エネ法に基づくエネルギー消費効率

CPU	Xeon™ 2.40GHz	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率 〔単位:W/MTOPS〕(区分:Q)	Windows XP モデル	0.022
	Windows 2000 モデル	0.022
	Windows NT モデル	0.025

## LAN 機能

LAN コントローラ	Intel 82550
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 3Kbyte
外部インターフェース	ISO 802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル※1 (100Mbps : カテゴリ 5、10Mbps : カテゴリ 3 ~ 5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数／セグメント	ハブユニット※2 による

※1: ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア (UTP) カテゴリ 5 またはそれ以上のデータ・グレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 またはカテゴリ 4 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

※2: ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

### POINT

- ▶ 本ワークステーション標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

## 表示機能

### ■ 標準モデル

グラフィックスアクセラレータ	Millennium G450
ビデオ RAM	32MB
解像度／発色数	プライマリ：最大 2048 × 1536 ドット / 最大 1677 万色 セカンダリ：最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色
インターフェース	デジタルディスプレイ (DVI-I 準拠) 29 ピン (コピー・プロテクション非対応) × 1 <sup>※1</sup>

※1 : DVI-VGA 変更ケーブルを使用する場合、アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン × 2 に変更可能。

### ■ カスタムメイドオプションで CELSIUS Quadro4 750XGL を選択している場合

グラフィックスアクセラレータ	CELSIUS Quadro4 750XGL
ビデオ RAM	128MB
解像度／発色数	プライマリ：最大 2048 × 1536 ドット / 最大 1677 万色 セカンダリ：最大 2048 × 1536 ドット / 最大 1677 万色
インターフェース	アナログ RGB ミニ D-SUB15 ピン × 1 デジタルディスプレイ (DVI-I 準拠) 29 ピン (コピー・プロテクション非対応) × 1

### ■ カスタムメイドオプションで CELSIUS Quadro4 900XGL を選択している場合

グラフィックスアクセラレータ	CELSIUS Quadro4 900XGL
ビデオ RAM	128MB
解像度／発色数	プライマリ：最大 2048 × 1536 ドット / 最大 1677 万色 セカンダリ：最大 2048 × 1536 ドット / 最大 1677 万色
インターフェース	デジタルディスプレイ (DVI-I 準拠) 29 ピン (コピー・プロテクション非対応) × 2

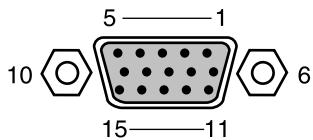
### ■ カスタムメイドオプションで CELSIUS Wildcat III 6110 を選択している場合

グラフィックスアクセラレータ	CELSIUS Wildcat III 6110
ビデオメモリ	64MB
テクスチャーメモリ	128MB
解像度／発色数	プライマリ：最大 1920 × 1400 ドット / 最大 1677 万色 セカンダリ：最大 1920 × 1400 ドット / 最大 1677 万色
インターフェース	デジタルディスプレイ (DVI-I 準拠) 29 ピン (コピー・プロテクション非対応) × 2

## 2 コネクタ仕様

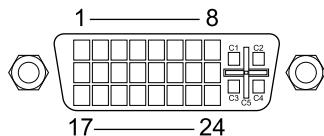
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

### ■ アナログ RGB コネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5 ~ 8	GND	—	グランド
9	+5V	—	+5V
10	GND	—	グランド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

### ■ DVI-I コネクタ

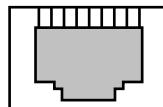


ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル 2-
2	TX2+	出力	データチャンネル 2+
3	TX2/4 Shield	—	グランド
4	N.C	—	未接続
5	—	—	未接続
6	DDC Clock	入出力	DDC クロック
7	DDC Data	入出力	DDC データ
8	Analog V Sync	出力	アナログ垂直同期信号
9	TX1-	出力	データチャンネル 1-
10	TX1+	出力	データチャンネル 1+
11	TX1/3 Shield	—	グランド
12	N.C	—	未接続

ピン番号	信号名	方向	説明
13	N.C	—	未接続
14	+5V	—	+5V
15	GND	—	グランド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル0-
18	TX0+	出力	データチャンネル0+
19	TX0/5 Shield	—	グランド
20	N.C	—	未接続
21	N.C	—	未接続
22	TXC Shield	—	グランド
23	TXC+	出力	データクロック+
24	TXC-	出力	データクロック-
C1	Analog Red	出力	アナログレッド出力
C2	Analog Green	出力	アナロググリーン出力
C3	Analog Blue	出力	アナログブルー出力
C4	Analog H Sync	出力	アナログ水平同期信号
C5	Analog Ground	—	アナロググランド

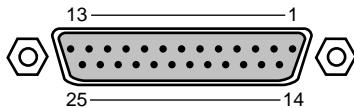
## ■ LAN コネクタ

1 —— 8



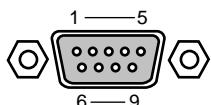
ピン No.	信号名	方向	内容
1	TD+	出力	送信データ+
2	TD-	出力	送信データ-
3	RD+	入力	受信データ+
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ-
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

## ■ パラレルコネクタ



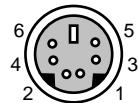
ピン No.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA0	入出力	データ 0
3	DATA1	入出力	データ 1
4	DATA2	入出力	データ 2
5	DATA3	入出力	データ 3
6	DATA4	入出力	データ 4
7	DATA5	入出力	データ 5
8	DATA6	入出力	データ 6
9	DATA7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	—	グランド

## ■ シリアルコネクタ



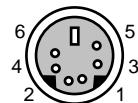
ピン No.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

## ■ マウスコネクタ



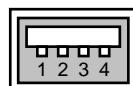
ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

## ■ キーボードコネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

## ■ USB コネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	-データ信号
3	+DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グランド

# 索引

## A

- Advanced Boot Options メニュー ..... 76
- Advanced Chipset Features メニュー ..... 79

## B

- BIOS
  - 一セットアップ ..... 68
  - 一操作方法 ..... 69

## C

- CD をセットする／取り出す ..... 25
- Configuration Settings メニュー ..... 100
- CPU Smart Setting メニュー ..... 91
- CPU モジュールを取り付ける ..... 45

## D

- DVI-I コネクタ ..... 111

## E

- Exit Fast!UTIL メニュー ..... 106
- Exit Without Saving ..... 94

## F

- Fast!UTIL ユーティリティ ..... 97

## I

- Integrated Peripherals メニュー ..... 81

## L

- LAN コネクタ ..... 112
- Load Optimized Defaults ..... 94

## P

- PC Health Status メニュー ..... 93
- PnP/PCI Configurations メニュー ..... 86
- Power Management Setup メニュー ..... 84

## S

- Save & Exit Setup ..... 94
- Scan SCSI Bus メニュー ..... 105
- SCSI Disk Utility メニュー ..... 105
- Security Features メニュー ..... 89
- Select Host Adapter メニュー ..... 106
- Standard CMOS Features メニュー ..... 73

## U

- USB コネクタ ..... 114

## あ行

- アナログ RGB コネクタ ..... 111

## か行

- 各種ドライブを取り付ける ..... 55
- 拡張カードを取り付ける ..... 51
- キーボード
  - 一コネクタ ..... 114
  - 一のお手入れ ..... 30

## さ行

- 周辺機器 ..... 34
- 仕様一覧 ..... 108
- シリアルコネクタ ..... 113
- 施錠 ..... 32

## は行

- ハードディスク ..... 28
- パスワード ..... 89
- パラレルコネクタ ..... 113
- フロッピーディスク
  - 一ドライブのお手入れ ..... 31
  - 一をセットする／取り出す ..... 26
- 本体カバーを取り外す ..... 36

## ま行

- マウス
  - 一コネクタ ..... 114
  - 一のお手入れ ..... 29
  - 一の使い方 ..... 20

マザーボード	16
マルチプロセッサーカーネル	49
メモリを取り付ける	40

## わ行

### ワークステーション本体

－前面	10
－内部	14
－のお手入れ	29
－背面	12

---

CELSIUS 670

ハードウェアガイド  
B5FH-6051-01-02

発行日 2002年6月  
発行責任 富士通株式会社

---

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。